

吳  
鎮守府

0130

第 表  
 職務及艦艇名 練習艦 艦長(司令) 海軍大佐 白石信成 副艦長 海軍中佐 雨野俊親 機関長 海軍中佐 雨野俊親 副機関長

大正十三年 基 本 用 教 練 運 轉 成 績 表 (第 一 次) 五月 四 日 於 館 山 湾 外 施 行

扶 輪 機 第 二 五 號 / 三

五 月 十 七 日 提 出

三 関機 13.5.10 受 撥

項 目		運轉ノ種類		第一回基本教練運轉		高速航績力試験(又ハ公試)全力		運轉ノ種類		第一回基本教練運轉		高速航績力試験(又ハ公試)全力	
編 隊 番 號	運 轉 時 間	單 艦	雙 艦	單 艦	雙 艦	單 艦	雙 艦	罐 使 用 數 (分 數)	混 燒 罐	罐 使 用 數 (分 數)	混 燒 罐	罐 使 用 數 (分 數)	混 燒 罐
蒸 氣 壓 力 (听)	最 高	27.5 (听)		27.5		27.5		24		24		24	
	最 低	26.5 (听)		26.0		26.0		24		24		24	
	最 高	27.0 (听)		26.0		26.0		通 風 (吋) (最 高 最 低)		7/8 / 3/8		1/2 / 1/8	
	最 低	26.0 (听)		25.0		25.0		燃 料 費 (噸)		0 / 105,700		0 / 100,300	
	左 舷 機 械	219 (听)		234		234		一 晝 夜 B <sub>2</sub> /L		634,200 / 0		802,000 / 0	
	右 舷 機 械	216 (听)		232		232		每 時 每 馬 力		0.96		0.720	
	機 械							每 哩		1,320.0		1,450.0	
	機 械							燃 燒 度 (噸)		石 炭 專 燒 罐 12.35		19.4	
	機 械							混 燒 罐					
	機 械							給 水 費 額 (噸)		3.5		11.9	
	機 械							造 水 量 (噸)		17.5			
高 壓 滑 弁 開 又	左 舷 機 械	32/50		43/50		43/50		潤 滑 油 費 額 (立)		內 部 油 13.8		不 詳	
	右 舷 機 械	32/50		43/50		43/50		外 部 油 174.4				合 上	
高 壓 滑 弁 切 比	左 舷 機 械							溫 度 (華 氏)		甲 板 58°		88°	
	右 舷 機 械							機 械 室 98°		機 械 室 98°		107°	
	機 械							罐 室 95°		海 水 63°		104°	
	機 械							給 水 (平 均)		給 水 [タンク] 78°		76°	
	機 械							加 熱 器 出 口		180°		92°	
真 空 (吋)	左 舷 機 械	28.4		28.0		28.0		冷 却 器 入 口		103°		116°	
	右 舷 機 械	29.0		27.6		27.6		冷 却 器 出 口		96°		98°	
	機 械							推 力 軸 承		104°		125°	
	機 械							主 軸 承		118°		128°	
助 排 氣 ノ 種 類	密 閉 排 氣			密 閉 排 氣		密 閉 排 氣		發 煙 狀 態		石 炭 專 燒 罐 2~3		不 詳	
機 械 使 用 區 分	兩 舷 機 械 獨 立			兩 舷 機 械 獨 立		兩 舷 機 械 獨 立		混 燒 罐					
推 進 軸 每 分 回 轉 數	左 舷 (外 軸) 機 械	243.0		280.0		280.0		前 部		27'-6"		28'-6 1/2"	
	左 舷 (內 軸) 機 械	242.0		295.6		295.6		後 部		30'-8"		29'-8 1/2"	
	右 舷 (內 軸) 機 械	247.0		295.8		295.8		平 均		29'-1"		28'-9 1/2"	
	右 舷 (外 軸) 機 械	241.0		279.9		279.9		同 上 = 對 ス ル 排 水 量		31,400		30,662	
	平 均 預 定	245.0		280.0		280.0		出 渠 後 ノ 日 數		175		17	
	平 均 實 際	243.3		287.8		287.8		艦 底 ノ 狀 況		汚 穢		清 淨	
發 生 馬 力 (實 馬 力)	左 舷 (外 軸) 機 械	6,600		9,480		9,480		海 上 ノ 模 樣		和		和	
	左 舷 (內 軸) 機 械	7,140		13,623		13,623		風 向 及 風 力		0-1 3		0-1 3	
	右 舷 (內 軸) 機 械	7,270		13,515		13,515		潮 流		Φ Φ		Φ Φ	
	右 舷 (外 軸) 機 械	6,300		9,694		9,694							
	合 計 預 定	27,300		40,000		40,000							
	合 計 實 際	27,310		46,312		46,312							
速 力 (節)	預 定	19.0		22.5		22.5							
	實 際	19.3		23.0		23.0							

(備 考)  
 一、燃 燒 度 ハ 海 軍 用 語 (機 關 術) ノ 定 義 ニ 依 ル モ ノ ト ス  
 二、高 速 航 績 力 試 驗 (又 ハ 公 試) 全 力 欄 ニ ハ 赤 字 ヲ 以 テ 記 入 ス ル モ ノ ト ス  
 三、數 量 ノ 記 載 ハ 凡 テ 機 關 日 誌 機 關 月 報 記 註 心 得 ニ 依 ル モ ノ ト ス  
 四、燃 燒 度 ハ 海 軍 用 語 (機 關 術) ノ 定 義 ニ 依 ル モ ノ ト ス  
 五、燃 燒 度 ハ 海 軍 用 語 (機 關 術) ノ 定 義 ニ 依 ル モ ノ ト ス  
 六、燃 燒 度 ハ 海 軍 用 語 (機 關 術) ノ 定 義 ニ 依 ル モ ノ ト ス  
 七、燃 燒 度 ハ 海 軍 用 語 (機 關 術) ノ 定 義 ニ 依 ル モ ノ ト ス  
 八、燃 燒 度 ハ 海 軍 用 語 (機 關 術) ノ 定 義 ニ 依 ル モ ノ ト ス  
 九、燃 燒 度 ハ 海 軍 用 語 (機 關 術) ノ 定 義 ニ 依 ル モ ノ ト ス  
 十、燃 燒 度 ハ 海 軍 用 語 (機 關 術) ノ 定 義 ニ 依 ル モ ノ ト ス

第二表

役務及  
艦(艇)名  
基本  
教練  
運轉  
成績  
表  
(第一次)

項目	運轉ノ種類	第一回基本教練運轉		高速航績力試験(又ハ公試)全力	
		時間分	割合	時間分	割合
補助 裝置 使用 程度 (分數)	主送水唧筒	4/4	全上	4/4	全上
	主抽氣唧筒	4/4	全上	4/4	全上
	強壓注油唧筒	4/4	全上	4/4	全上
	油冷却唧筒	4/4	全上	4/4	全上
	灌水唧筒	4/4	全上	4/4	全上
	補助復水裝置	2/2	全上	2/2	全上
	主給水唧筒	4/4	全上	4/4	全上
	補助給水唧筒	4/4	全上	4/4	全上
	送風機	4/4	全上	4/4	全上
	噴燃用重油唧筒	使用セズ		使用セズ	
	蒸化器	4/4	全上	4/4	全上
	冷却機械	使用セズ		4/4	全上
	製水機械	全上		4/4	全上
	空氣壓搾唧筒	全上		4/4	全上
	水壓唧筒	4/4	全上	4/4	全上
消防唧筒	使用セズ		4/4	全上	
發電機	4/4	全上	4/4	全上	

運轉ノ計畫並經過ノ概要

運轉計畫 / 指定力量及其他

指定力量	全上對比之機械部回轉數(每分)	全上對比之推進力
27.200	245	19.0

2. 本運轉中標柱間汽走試驗二回施行  
3. 研究項目  
(1) 高力運轉中配員並非直員休養 (2) 即時高力發揮準備中機關操作  
(3) 編隊增進法 (4) 高力航行中機關兵鬼整備  
(5) 高力運轉汽贖指揮並通信法 (6) 淡煙高力運轉

經過概要 大正十三年五月四日午前五時三十分館山灣出港射擊終了後午前九時四十分十二節の増速に三十分を以て豫定力量達し午前十時十分の後に二時十分に運轉四時間施行し無事終了也。(終)

研究指定作業實施ノ概要

記事ナシ

機關効程ニ影響セシ事項

記事ナシ

運轉中實際生シタル故障缺損並處置

記事ナシ

研究ノ成果並所見

(1) 高力運轉中配員並非直員休養  
機械部之直配置を施行せし習熟セし配置之差支に各部之直配置を施行せし習熟セし配置を可なり四時間運轉中の休養必要ナシ非直員ノ成績調査從事也。

(2) 即時高力發揮準備中機關操作  
各部建設の保持統一の施行セラレタリ

(3) 編隊增進法  
高力運轉訓練未だ習熟セシ十二節の全力達三十分を以て豫定ナリ三十分を要セリ

(4) 高力航行中機關兵鬼整備  
整理法を建築ナリ尚大ニ研究訓練要アリ認ム

(5) 高力運轉汽贖指揮並通信法  
指揮者意圖明瞭に解セシ場合ハ現在訓練程度ハ先頭調行ハ認ム通信法ハ調行ハ尙一層訓練要アリ

(6) 淡煙高力運轉  
習熟ノ域ニ達セリ淡煙高力運轉ノ技倆ホ至ラス (終)

考	備	間	柱										標	距離(運)	試驗速度(節)	施行年月日	施行場所	標柱間汽走速度試驗成績	軍艦扶桑						
			其他考考事項	最近出渠後日數	排水量(噸)	平均吃水(呎吋)	潮流方向及速度	風向風力(海上)	試驗速度(對決定推進軸回轉數)(每分)	K	馬力	速度(節)								馬推進軸回轉數(每分)	推進軸回轉數			航走時間(分)	試驗順序
																					右舷軸	中央軸	左舷軸		
第一回教	一七五	三一、四三。	二九一。	不詳	和	二四二。	二〇、七	一、九二	二七、三一。	一九、二	二四二、五	一九九二	／	一五二五	七一、四二	往航	一、九七	一九、〇	館山沖	大正十三年五月四日					
練習轉全力				不詳	和	全上	一八、三	一、九三	二七、四三。	一九、八	二四二、〇	一九七二	／	一四六八	七一、七六	復航									
實際施行				不詳	和	全上	二〇、二	一、九三	二七、六八。	一九、三	二四三、〇	一八四三	／	一六三七	七一、〇〇。	往航									
						全上	一九、四	一、九二	二七、四六二	一九、四	二四二、三	一九三六	／	一五四三	七一、二。	平均									

扶桑機密第二五號

大正十三年六月二十一日横須賀

扶桑艦長白石信茂

海軍大臣財部 彪殿

機關

大正十三年基本教練運轉成績表(第1表)各一通

右提出ス

(別紙添付)

(終)



0134

(第 表)

役務及 船艇名 機務 機務 機務 機務	練習機 系	艦長(司令)海軍大佐白石信成 機関長 海軍大佐西田俊夫	編隊艦長 編隊艦機長
------------------------------------	----------	--------------------------------	---------------

大正十三年 基本教練運轉成績表 (第一次) 六月十日 於相模灘施行

項目	運轉ノ種類			高速航続力試験 (又ハ公試)全力	項目	運轉ノ種類				
	基本教練運轉	基本教練運轉	高速航続力試験 (又ハ公試)全力			基本教練運轉	基本教練運轉	高速航続力試験 (又ハ公試)全力		
編隊番號	單機	單機	單機	3-0	罐使用數 (分數)	24	24	24		
運轉時間	%全力4-0	%全力4-0	%全力4-0		通風(時)(最高最低)	2/4	2/4	2/4		
蒸氣壓力(磅)	最高	270	271	275	燃料費額(噸)	重油/石炭	0/105600	0/113650	0/100300	
	最低	260	260	260		一晝夜B <sub>2</sub> /L	633600/0	202600/0	802000/0	
	最高	265	260	260		每時每馬力	0.96	1.05	0.920	
	最低	251	253	250		每	1385	1675	14500	
	左舷機械	212	205	234		燃焼度(度)	石炭專焼	12.3	15.7	19.4
	右舷機械	210	200	232		混焼				
高壓滑弁開又ハタルベシノ入口	左舷機械	3/50	3/50	4/50	給水費額(噸)	9.0	11.0	11.8		
	右舷機械	3/50	3/50	4/50	造水量(噸)	0	0			
	左舷機械				潤滑油費額(立)	内部油	12.0	13.0	不詳	
	右舷機械					外部油	15.1	16.3	同上	
高壓滑弁開又ハタルベシノ入口	左舷機械	29°	29°	28.0	溫度(華氏)	甲板	65	68	88	
	右舷機械	29°	29°	27.0		機室	97	97	107	
	左舷機械					罐室	95	95	104	
	右舷機械					海水	68	68	76	
補助排氣ノ種類	密閉排氣	密閉排氣	密閉排氣	密閉排氣	給水(平均)	給水「タンク」	83	84	72	
	密閉排氣	密閉排氣	密閉排氣	密閉排氣	加熱器出口	180	180	使用セス		
	密閉排氣	密閉排氣	密閉排氣	密閉排氣	冷却器入口	105	110	116		
	密閉排氣	密閉排氣	密閉排氣	密閉排氣	冷却器出口	99	101	98		
推進軸毎分回轉數	左舷(外軸)機械	244.0	255.0	280	潤滑油(最高)	推力軸承	103	110	125	
	左舷(内軸)機械	242.0	253.0	275.6		主軸承	114	116	128	
	右舷(内軸)機械	246.0	258.0	295.8		發煙狀態	石炭專焼	0~2	0~2	不詳
	右舷(外軸)機械	242.0	251.0	279.7		混焼				
	平均	243.0	254.0	280.0		前部	29'-0"	28'-11"	28'-6 1/8"	
	實際	243.5	254.8	287.8		後部	31'-3"	31'-2"	29'-9 1/8"	
發生馬力(實馬力)	左舷(外軸)機械	6510	7590	9480	平均	30'-1 1/2"	30'-1 1/2"	28'-9 1/8"		
	左舷(内軸)機械	7150	8220	10623	同上ニ對スル排水量	32,750	32,600	30,662		
	右舷(内軸)機械	7600	8680	10515	出渠後ノ日數	211	211	17		
	右舷(外軸)機械	6250	7500	9694	艦底ノ狀況	汚穢	汚穢	清淨		
	合計	27,300	31,850	40,000	海上ノ模様	稍荒	稍荒	如		
	實際	27,460	31,940	46,312	風向及風力	40 5 1-4	40 5 5	50 5 5 0-1		
速力(節)	豫定	19.2	20.1	22.5	潮流	40 5 1-4	40 5 5	50 5 5 0-1		
	實際	19.1	20.0	23.0						

(備考) 一、燃焼度ハ海軍用語(機關術)ノ定義ニ依ルモノトシ火床面積ハ(CA)燃室容積ハ(CV)受熱面積ハ(HB)ヲ以テ表スモノトス  
二、高速航続力試験(又ハ公試)全力欄ニハ赤字ヲ以テ記入スルモノトス  
三、數量ノ記載ハ凡テ機關日誌機關月報記註心得ニ依ルモノトス

第二表

役務及練習機 艦(艇)名 扶 承

大正十三年 基本應 教練運轉成績表 (第一次)

Table with columns for '項目', '運轉ノ種類', '基本教練運轉', '基本教練運轉', and '高速航機力試験 (又ハ公試) 全力'. It lists various engine and machinery operations with their respective durations and results.

機關効程ニ影響セシ事項

ナシ

運轉中實際生シタル故障缺損並處置

ナシ

運轉ノ計畫並經過ノ概要

運轉計画
1. 指定力量及其他
2. 本運轉中標柱周汽走試験二回(第全力一回)施行ス
3. (イ) 高力運轉中、配員並非直員休養 (ロ) 即時高力發揮準備中機關操作 (ハ) 増速法
(ニ) 高力運轉中機關装置整備 (ホ) 高力運轉時指揮並通信法 (ヘ) 淡煙高力運轉
經過概要大正十三年六月八日午前八時四分機力測定港午前九時五分十二節増速三十分ハ指定力量全力運轉ハ午後一時三十分迄全力運轉施行ハ増速五十分ハ全力運轉中時迄効力運轉施行ハ基本教練運轉終了也 (終)

研究指定作業實施ノ概要

記事ナシ

研究ノ成果並所見

(イ) 高力運轉中配員並非直員休養
新乗艦者及新二等機関士多數乗艦ハ角機部ハ直員部ニシテ直員部ニシテ運轉施行ニ熱線域ニ運轉機部ハ直員部ハ及直員部ニシテ八時間運轉ハ故休養ハ一直二時間割合ナリト疲労ノ度ハ若シカモ當機部中ハ機部ハ
(ロ) 即時高力發揮準備中機關操作 各部連結ヲ保シ統一シテ施行セリ
(ハ) 絲歌増速法 高力運轉訓練ハ習熟ニ十二節ハ全力運轉三十分ヲ要シ
(ニ) 高力運轉中機關装置整備 建築ナリト尚研究ノ餘地アリ
(ホ) 高力運轉時指揮並通信法 順調ニ行ワレト尚訓練ノ餘地アリ
(ヘ) 淡煙高力運轉 習熟ノ域ニ達セザルハ充分ハ苦難ニ (終)

標柱間汽走速力試験成績

軍艦扶桑

施行年月日 大正十五年六月十日

施行場所 銘山沖

試験速力(節) 一九・二

豫定推進軸回轉數(毎分) 二四三

距離(哩) 二・七六七一

標 試驗順序 往 航 復 航 往 航 平均

航 走時間(分) 八—一九・五 八—二六・八 八—二四・八 八—二五・九

推 進 軸 回 轉 數 (毎分) 左 舷 軸 六〇・二四 六九・八〇 六〇・〇一 六九九九

中 央 軸 裝 備 不 上 上 上

右 舷 軸 六〇・五五 六〇・六九 六〇・二一 二〇・五五

柱 平均推進軸回轉數(毎分) 二四三・〇 二四三・〇 二四三・五 二四三・五

速 力(節) 一九・二 一八・九 一九・一 一九・〇

馬 力 二七、五六。 二七、三二〇 二七、三七〇 二七、三四五

間 K 一九〇・ 一九〇・ 一九七 一九七

推進鬼失脚(百瓦) 二一・〇 二二・二 二一・六 二一・五

試驗速力(對決定推 進軸回轉數(毎分)) 二四三 二四三 二四三 二四三

備 風向風力(海上) 無 無 無 無

潮流方向及速力 不詳 不詳 不詳 不詳

平均吃水(呎) 三・一—一五寸

排水量(噸) 二六、七五〇

考 最近出港後日數 二—一—一

其他參考事項 基本放線運轉中施行



標柱間汽走速力試験成績 軍艦扶桑

考		備			間										標		施行年月日	施行場所	試験速力(節)	豫定推進軸回轉數(毎分)
其他参考(九平事項)	最近出渠後日數	排水量(噸)	平均吃水(呎寸)	潮流方向及速力	風向風力(海上模様)	試験速力對正決定推進軸回轉數(毎分)	推進鬼失脚(百匹)	K	馬力	速力(節)	平均推進軸回轉數(毎分)	推進軸回轉數			航走時間(分)	試驗順序				
												右舷軸	中央軸	左舷軸						
基本教練運轉中施行	二一一	三六六〇	三〇呎三寸	△不詳	△↑5節	二五〇	二一二	一九〇	三二八〇	二〇一	二五〇	六〇三一	裝備七人	一九八九	七—五八	往航	二・六六七一	二五〇		
				△不詳	△↓5節	二五〇	一一〇	一九〇	三二九〇	二〇〇	二五〇	六〇二五	全上	一九五〇	八—	復航				
				△不詳	△↑5節	二五〇	一一〇	一九〇	三二八〇	二〇〇	二五〇	六〇二五	全上	二〇〇六	七—五九	往航				
						二五〇	一一〇	一九〇	三二八〇	二〇〇	二五〇	六〇三〇	全上	一九七五	七—五九	平均				

大正十三年九月八日

大正十三年九月八日

大井艦長 松下 薫

海軍大臣 財部 彪殿

大正十三年基本教練運轉成績表 二葉

右提出ス

終

18.9.12

海軍

官房受

0139

(第一表)

役務及艦艇名	海軍大佐 松下 兼	艦長 (司令)	海軍大佐 松本 兼	驅逐艦長
	海軍少佐 島 久能	機關長	海軍少佐 島 久能	驅逐艦機關長

大正十三年 基本本用 教練運轉成績表 (第一次)

八月二十六日  
於多摩川北海面施行

運轉ノ種類		項目		運轉ノ種類		項目		
日		基本教練運轉		日		基本教練運轉		
編隊	番號			罐使用數 (分數)	油專燒罐	大%	小%	
運轉	時間	8-0		通風 (時) (最高/最低)		4/3/2		
蒸氣壓力 (听)	罐室	最高	250	燃料費額 (聽)	重油/石炭	235.000	80.000/5200	
	機械室	最高	245		一晝夜 B <sub>2</sub> /L	705.000	1080.000/62400	
蒸氣壓力 (听)	H <sub>2</sub> (タルビン) 入口	最高	240	燃燒度 (瓦)	每時每馬力	0.55	0.503 (H <sub>2</sub> )	
		最低	230		每	9.67	1.092	
		右舷外軸機械	140		油專燒罐	大%	0.35/1	0.533 (H <sub>2</sub> )
		右舷内軸機械	165		混燒罐	小%	0.36/1	0.2411 (H <sub>2</sub> )
	蒸氣壓力 (听)	左舷内軸機械	160.5	182.8	給水費額 (聽)		32	
		左舷外軸機械	138.5	190.6	遺水量 (聽)		32	
		右舷外軸機械	29/38	38/38	潤滑油費額 (立)	內部油	25	
		右舷内軸機械	29/38	38/38	外部油	500	98	
蒸氣壓力 (听)	左舷内軸機械	29/38	38/38	溫度 (華氏)	甲板	84	67	
	左舷外軸機械	29/38	38/38		機械室	120	94	
	右舷内軸機械	29	28		罐室	105	95	
	右舷外軸機械	29.1	28.8		海水	84.5	67.4	
蒸氣壓力 (听)	左舷内軸機械	29.1	27.6	給水 (平均)	給水「タンク」	130	125.8	
	左舷外軸機械	29	27.6	加熱器出口	132			
	右舷内軸機械	29.1	27.6	冷却器入口	127	121.6		
	右舷外軸機械	29	27.6	冷却器出口	117	110.8		
補助排氣ノ種類	閉鎖排氣		密閉排氣	潤滑 (最高油)	推力軸承	128		
主機使用區分	四軸並流		四軸並流		主軸承	126		
推進軸每分回轉數	右舷外軸機械	305.8	365	發煙狀態	油專燒罐	0~1		
	右舷内軸機械	302.4	360		混燒罐			
	左舷内軸機械	301.0	360	吃水 (呎)	前部	16-2	17-3 1/2	
	左舷外軸機械	305.9	370		後部	17-11	18-6 1/2	
發生馬力 (軸馬力)	平均	305		平均	17-1/2	17-11		
	豫定	303.8	363	同上ニ對スル排水量		6200	6650	
	實際	13,540	20,910	出渠後ノ日數		111	3	
	右舷内軸機械	14,620	20,404	艦底ノ狀況		稍汚	淨	
速度 (節)	左舷内軸機械	14,020	20,560	海上ノ模様		靜穩	知	
	左舷外軸機械	13,060	20,522	風向及風力		3~4 70		
	合計	53,400	80,396	潮流		不明		
	豫定	30						
實際	30.4	33.621						

(備考) 一、燃燒度、海軍用語 (機關術) ノ定義ニ依ルモノトシ火床面積ハ (GA) 燃室容積ハ (OV) 受熱面積ハ (HS) ヲ以テ表スルモノトス  
二、高速航續力試驗 (又ハ公試) 全力欄ニハ赤字ヲ以テ記入スルモノトス  
三、數量ノ記載ハ凡テ機關日誌機關月報記註心得ニ依ルモノトス

第一表

役務及 吳鎮守府警備艦(馬公)  
艦(艇)名 大井

大正十三年 基本 教練 運轉 成績表 (第一次)

項目	運轉ノ種類	基本教練運轉	高速航績力試験 (又20公試)全力
補助 裝置 使用 程度 (分數)	主送水唧筒	回轉數 480X4	460X4
	主抽氣唧筒	" 30X4	28X4
	強壓注油唧筒	" 50X4	四台
	油冷却唧筒	" 30X2	二台
	灌水唧筒		
	補助復水裝置		
	主給水唧筒	" 13X6	一罐室 12 二罐室 13X6
	補助給水唧筒		2-12X4
	送風機	" 1000X9	一罐室 1000X2 二罐室 1000X9
	噴燃用重油唧筒	" 12X5	一罐室 24X1 二罐室 12X5
	蒸化器	一臺 蒸溜量 32	二台
	冷却機	三臺	
	製水機	一臺	
	空氣壓搾唧筒		
	水壓唧筒		
消防唧筒	隨時一臺使用		
發電機	一臺 1000X1 二臺 500X1		

機關 効程 = 影響 セ シ 事項

海水温度華氏 84.7 至 85 度、海面 = 於運轉中、以主送水唧筒、油冷却唧筒、回轉數、十分、六、全力  
公試(海水温度 82°)成績比之約 6% 増加ナリ (終)

運轉中 實際 生シタル 故障 缺損 處置

記事ナシ

運轉ノ計畫 並 經過ノ概要

1. 運轉計畫 大正十三年八月二十六日馬公の吳=田航途中、臺灣北海面、於下記事項=實施ス  
 (1) 發生力量及速力 53,400馬力 30節  
 (2) 推進器毎分回轉數 305  
 (3) 運轉時間 8時間  
 (4) 主機械使用區分 四軸並流運轉、密閉排氣使用(排氣壓力15噸)  
 (5) 使用雜數 油專燒燼10(奈々)  
 (6) 當直配置 准士官以上戰隊配置下士官兵三直  
 2. 運轉經過ノ概要 當日前九時迄=運轉準備ヲ完成シ、同時刻規定變速標準=ヨリ、原速十二節ヲ速力ヲ増シ九時三十分回轉整定ニテ、以テ速力ヲ計測シ、豫定馬力ヲ發生スリ、以テ九時五十分ニ運轉ヲ開始シ、午後五時五十分終了セリ、運轉開始後ニ時間ニテ、准士官以上ハ各部=於テ三分ニ直トシ、時間究休養スルコトセリ (終)

研究 指定 作業 實施ノ概要

記事ナシ

研究ノ成果 並 所見

1. 高速力航走=對ル機關及兵器ノ整備法 増速開始時、於テ「タル」ノ噴口、八規定通り、閉シ、使用雜、全部併用シ、  
 2. 高速力航走時=於テ指揮操縦法 一般=適切ニ行ハレリ、突大指揮法=アテハ、三、四、回、變、ヲ、使用、セ、リ、以、テ、二、四、回、變、  
 3. 高速力航走時=於テ通信傳令法 指揮操縦法、根源トモ思ハ、通信裝置、整備、及、傳令員、訓練、ハ、尚、練、磨、ノ、餘、地、  
 4. 高速力航走時=於テ機關兵器ノ性能並=動力ノ程度 本運轉中工業室旋盤、震動、1/2分、時、以下、ノ、螺、糸、製作、不可能、ヲ、増速中、實驗、ニ、徴、ス、ハ、25節、以上、ニ、テ、ハ、精、細、ナ、  
 製作品、タ、ハ、旋盤、ノ、使用、ハ、不可能、ナ、リ、ト、認、ム (終)

機密

海軍大臣 第一三六

大正十三年九月二十七日 於吳

海軍大臣財部彪殿 球磨艦長橋本才



一、大正十三年基本教練運轉成績表

右提出ス

(別紙綴一通添)

(終)

壹通



0142

(第一表)

役務及艦艇名 鎮守府警備艦 鎮守府警備艦 鎮守府警備艦 鎮守府警備艦  
艦長(司令) 海軍大佐 橋本中尉 海軍大佐 橋本中尉 海軍大佐 橋本中尉 海軍大佐 橋本中尉  
機関長 海軍中尉 甘水 海軍中尉 甘水 海軍中尉 甘水 海軍中尉 甘水

大正十三年 基本用 教練 運轉 成績表 (第 次) 九月十九日 於伊豫灘施行

項目	運轉ノ種類		高速航績力試験(又ハ公試)全力	項目	運轉ノ種類		高速航績力試験(又ハ公試)全力	
	十分七全力	十分六全力			十分七全力	十分六全力		
編隊番號	單艦	單艦	單艦	罐使用數(分數)	重油專燒罐 混燒罐	單艦	單艦	
運轉時間	4-0	4-0	1-0	通風(吋)(最高/最低)	10/10 2/2	單艦	單艦	
蒸氣壓力(吋)	最高	260	260	燃料費額(噸)	重油/石炭	258.5	258.5	
	最低	250	250		一晝夜B <sub>2</sub> /L	140.5/8	244	244
蒸氣壓力(吋)	最高	255	255	燃燒度(噸)	每時每馬力	228	228	
	最低	240	245		重油專燒罐	48/943.0	214	214
蒸氣壓力(吋)	右舷 外軸機械	162	136	給水費額(噸)	每	187.4	187.4	
	左舷 內軸機械	160	132		重油專燒罐	1.25	187.5	187.5
	右舷 內軸機械	160	130		混燒罐	0.406(H.S.)	185.9	185.9
	左舷 外軸機械	158	137		給水	11.6(G.A.)	188.6	188.6
蒸氣壓力(吋)	右舷 外軸機械	22/26	22/26	造水量(噸)	20	22	22	
	左舷 內軸機械	全上	全上	潤滑油費額(立)	8	全上	全上	
	右舷 內軸機械	全上	全上	內部油	28.0	全上	全上	
	左舷 外軸機械	全上	全上	外部油	281	全上	全上	
真空(吋)	右舷 外軸機械	27.5	28.0	溫度(華氏)	甲板	71	75	
	左舷 內軸機械	27.5	27.7		機械室	94	102	85.2
	右舷 內軸機械	27.5	27.3		艙室	95	100	68.6
	左舷 外軸機械	27.0	27.9		海水	77	77	68
補助排氣ノ種類	密閉排氣		密閉排氣	給水(平均)	給水「タンク」	135	132	
	全上		全上		加熱器出口			
推進軸每分回轉數	右舷 外軸機械	295	283	潤滑油(最高)	冷却器入口	122	120	
	左舷 內軸機械	294	281		冷却器出口	116	116	100.5
	右舷 內軸機械	293	282		推力軸承	123	124	134
	左舷 外軸機械	294	284		主軸承	133	131	130
	平均	295	285		發煙狀態	重油專燒罐	0	0
	實際	294	282.5		混燒罐	1	1	1
發生馬力(軸馬力)	右舷 外軸機械	15,410	13,027	吃水(呎)	前部	16-3	15-9	
	左舷 內軸機械	16,730	14,634		後部	18-8	18-4	18-10
	右舷 內軸機械	15,342	13,070		平均	17-5 1/2	17-1/2	18-7
	左舷 外軸機械	15,571	13,628		同上=對スル排水量	6417	6197	6760
合計	豫定	63,000	54,000	出渠後ノ日數	233	233	3	
	實際	63,053	54,159	艦底ノ狀況	35	35	35	
速力(節)	豫定	29.0	28.10	海上ノ模様	和	和	和	
	實際	28.24	27.63	風向及風力	2-20	2-20	5-0	
			潮流	不詳	不詳	逆		

(備考)

一、燃燒度ハ海軍用語(機關術)ノ定義ニ依ルモノトシ、火床面積ハ(GA)燃室容積ハ(OV)受熱面積ハ(HS)ヲ以テ表スルモノトス

二、高速航績力試験(又ハ公試)全力欄ニハ赤字ヲ以テ記入スルモノトス

三、數量ノ載記ハ凡テ機關日誌機關月報記註心得ニ依ルモノトス

0143

(第二表)

役務及裝備  
艦(艇)名 鎮守府練習艦 球磨

大正十三年基應本用教練運轉成績表 (第 次)

項目	十分七全力	十分六全力	高速航續力試驗 (又六公試)全力
主送水唧筒	4/4	4/4	4/4
主抽氣唧筒	4/4	4/4	4/4
強壓注油唧筒	4/4	4/4	4/4
油冷却唧筒	2/2	2/2	2/2
灌水唧筒			
補助復水裝置	0/1	0/1	0/1
主給水唧筒	8/8	5/8	8/8
補助給水唧筒	緩軟	緩軟	緩軟
送風機	11/11	9/11	11/11
噴燃用重油唧筒	6/6	4/6	6/6
蒸化器	2/2	2/2	2/2
冷却機	適宜	適宜	適宜
製水機			
空氣壓搾唧筒	0/2	0/2	0/2
水壓唧筒			
消防唧筒	1/2適宜	1/2適宜	適宜
發電機	1/2	1/2	1/2

運轉ノ計畫並經過ノ概要

運轉目的

機園運轉訓練規則第十條目的ニ係、モリ主クモリニ三基高圧第一段落翼換裝其他各部ニ於テモリ修理後、狀態ヲ確認セトス  
 實施要領 1. 運轉力量及時間十分七全力(63,000 S.H.P.)十分六全力(54,000 S.H.P.)各同時開始  
 2. 午前七時特別府後直ニ増速ニ七時半十分七全力運轉開始午前十一時半終了ト同時ニ減速  
 續ニ十分六全力運轉油給止後三時半終了ト同時ニ減速、増減、本機變速標準ニモリモリトス  
 3. 運轉終了、兩舷主クモリニ四軸分派ニテ使用(密閉排気)  
 4. 汽機諸元ノ使用モ教 1/10 全力運轉時重油率燃費 1/10 混燒モ 2/10 全力運轉時重油率燃費 1/10  
 經過九日九日午前七時出港後漸次増速七時四十分 1/10 全力運轉開始午前十一時四十分終了ト同時ニ減速 1/10 全力運轉開始午後三時四十分機園兵器船体各部異狀ヲ認メズ、順期終了也

研究指定作業實施ノ概要

研究ノ成果並所見

機關効程ニ影響セシ事項  
 出港後ハヶ月ニ達シ艦底ニ海藻貝類、附著著ク標準表ニモリ速力ニ對シ然科費、類約ニ割増加セリ  
 (終)

整備法七月十八日以降工廠陸岸ニ繋留注クモリ第一段落翼換裝及一般修理ニ着手セト同時機園兵器  
 1. 検査午入ニ從事以テ五日改造修理済、竣工次ニ十九日商カヲ選擇スルモ、非常ニ繁忙ヲ極メ、各員熱心ナル努力ヲ注意用テ、モリ遺憾ナク、被力量完全ニ發揮シ、何等故障ナク良好ニ成績ヲ得タリ  
 2. 指揮法固有通信器、12ヲ使用シ固有配置員、以テ通信聯絡ヲ保シ、運轉ヲ實施シ、モリ何等混亂スル事ヲ訓練シ、指揮法ト内熟ニ技能ト相俟テ良好ニ成績ヲ得タリ  
 3. 操縱法、本機變速標準ニモリ回轉數、増減ヲ行ヒ、モリ通信法正確ニ以テ機園兵器、相俟テ何等故障ヲ認メズ  
 2. 機園兵器、効力ヲ充分ニ發揮シ、機園兵器、力柱ニ性能ヲ知悉自認セシケル事ヲ得タリ  
 3. 本機、教育年度初頭ニ行動頻繁ニ、為各種教育環境ヲ實施シ、機園兵器、伎倆、著ク進歩シ、指揮官、意欲ニ從ヒ、莫ク静肅沈着、間作動ニ直配置ニテ實施シ、モリ疲勞ノ色ナク、元氣旺盛ニ運轉ヲ完了シ、モリ、今回ノ運轉、訓練、モリ、機園兵器、各員、由來ノ注意、相俟テ、所期目的ヲ充分達成シ、得ルモリトス

運轉中實際生シタル故障缺損並處置

無シ

第一表

役務及艦艇名	警備艦 渡	艦長(司令) 海軍中佐 柴山 司馬	副艦長 海軍少佐 藤田 隆雄
		機長 海軍中佐 柴山 司馬	機副長 海軍少佐 藤田 隆雄

大正十三年 基應 本用 教練 運轉 成績 表 (第一次) 六月十九日 於 浦賀 間 施行

項目		運轉ノ種類		高速航績力試験(又ハ公試)全力		項目		運轉ノ種類		高速航績力試験(又ハ公試)全力				
		% 全力	% 全力					% 全力	% 全力					
編隊番號	運轉時間	單 艦	左 右	單 艦	左 右	縮使用數(分數)	罐 混 燒 罐	4/4	4/4	4/4	4/4			
蒸氣壓力(噸)	最高	2 2 2	2 1 0	2 1 5	1 9 0	通風(吋)(最高最低)	1/4 / 0	3/8 / 1/8	2 1/2 / 3/8	2 1/2 / 3/8	2 1/2 / 3/8			
		1 6 0	1 5 0	1 9 0	1 5 0		燃料費(噸)	0 / 15,600	3,000 / 12,000	13,328 / 27,432	13,328 / 27,432	13,328 / 27,432		
	2 1 0	1 9 5	2 0 0	2 0 0	一晝夜 B <sub>2</sub> /T <sub>1</sub>	124,800 / 0		16,000 / 24,000	164,552 / 23,168	164,552 / 23,168	164,552 / 23,168			
	1 4 5	1 3 5	1 8 5	1 8 5	每時每馬力	1.61		1.53	2.08	2.08	2.08			
	1 3 5	1 4 2	1 8 2	1 8 2	每 湮	3 3 2		3 3 7	6 0 6	6 0 6	6 0 6			
	右舷機械	1 2 5	1 3 0	1 8 3	1 8 3	燃燒度(噸)	12.9	14.7	30.2	30.2	30.2			
左舷機械					給水費額(噸)	2.8	3.7							
高壓滑弁開又					造水量(噸)	1.0	1.2							
高壓滑弁開切比	若ハ噴口使用數(分數)	7 3.5	7 3.5	7 3.5	7 3.5	潤滑油費額(立)	1.0	1.0	2.1	2.1	2.1			
		7 3.5	7 3.5	7 3.5	7 3.5	內 部 油	30.0	30.0	72	72	72			
真空(吋)	眞空(吋)	2 2	2 3	2 1.6	2 1.6	溫度(華氏)	甲 板	7 8.5	8 2.4	7 8.5	7 8.5	7 8.5		
		2 4	2 4	2 2.7	2 2.7			機 械 室	110	101	111	102	111	102
								罐 室	110	111	111	111	111	
補助排氣ノ種類	主 機 械 使 用 區 分	普通排氣	左 右	普通排氣	左 右	海 水	86	86	64	64	64			
		兩舷機使用	左 右	兩舷機使用	左 右	給水[タンク]	140	140	75	75	75			
推進軸每分回轉數	右舷機械	177.2	186.0	223.5	223.5	加 熱 器 出 口	175	178	162	162	162			
		174.8	190.4	222.1	222.1	潤 滑 油								
						冷 却 器 入 口								
						冷 却 器 出 口								
發生馬力(實馬力)	平均	180.0	185	225.0	225.0	推 力 軸 承	150	155						
		176.0	188.2	222.8	222.8	主 軸 承	110	115						
						發 煙 狀 態	1~4	2~4						
						混 燒 罐								
速 力(節)	豫 定	16.0	17.0	19.5	19.5	前 部	11-4 1/2	11-3						
		15.6	16.9	20.0	20.0	後 部	13-4 1/8	13-2 3/4						
	實 際					平 均	12-4 1/3	12-2 1/2	11-3 1/8	11-3 1/8	11-3 1/8			
						同 上 = 對 ス ル 排 水 量	166.2	163.4	125.4	125.4	125.4			
						出 渠 後 ノ 日 數	96	96	230	230	230			
						艦 底 ノ 狀 況	清 淨	左 右						
						海 上 ノ 模 樣	和	ホロ						
						風 向 及 風 力	2	2						
						潮 流								

(備考)

一、燃燒度ハ海軍用語(機關術)ノ定義ニ依ルモノトシ火床面積ハ(GA)燃室容積ハ(OV)受熱面積ハ(HS)ヲ以テ表スモノトス  
 二、高速航績力試験(又ハ公試)全力欄ニハ赤字ヲ以テ記入ズルモノトス  
 三、數量ノ記載ハ凡テ機關日誌機關月報記註心得ニ依ルモノトス

0145



第二表

役務及 艦(艇)名 敬 備 艦 決

大正十三年 基 本 應 用 教 練 運 轉 成 績 表 (第 一 次)

項 目	運 轉 ノ 種 類	% 全 力	% 全 力	高 速 航 績 力 試 驗 (又ハ公 試) 全 力
補 助 裝 置 使 用 程 度 (分 數)	主 送 水 唧 筒	4/4	4/4	4/4
	主 抽 氣 唧 筒	3/2	3/2	3/2
	強 壓 注 油 唧 筒	3/3	2/3	3/3
	油 冷 却 唧 筒			
	灌 水 唧 筒			
	補 助 復 水 裝 置			
	主 給 水 唧 筒	4/4	4/4	4/4
	補 助 給 水 唧 筒			
	送 風 機 械	4/4	4/4	4/4
	噴 燃 用 重 油 唧 筒	0/2	1/2	2/2
	蒸 化 器	1/2	1/2	
	冷 却 機 械	2/2	2/2	
	製 氷 機 械	1/1	1/1	
	空 氣 壓 搾 唧 筒	1/2	1/2	
水 壓 唧 筒				
消 防 唧 筒	3/2	2/2	3/2	
發 電 機 械	1/2	1/2	2/2	

運 轉 ノ 計 畫 並 經 過 ノ 概 要

午前九時十五分一。二。三。四。五。六。七。八。九。十。十一。十二。十三。十四。十五。十六。十七。十八。十九。二十。二十一。二十二。二十三。二十四。二十五。二十六。二十七。二十八。二十九。三十。三十一。三十二。三十三。三十四。三十五。三十六。三十七。三十八。三十九。四十。四十一。四十二。四十三。四十四。四十五。四十六。四十七。四十八。四十九。五十。五十一。五十二。五十三。五十四。五十五。五十六。五十七。五十八。五十九。六十。六十一。六十二。六十三。六十四。六十五。六十六。六十七。六十八。六十九。七十。七十一。七十二。七十三。七十四。七十五。七十六。七十七。七十八。七十九。八十。八十一。八十二。八十三。八十四。八十五。八十六。八十七。八十八。八十九。九十。九十一。九十二。九十三。九十四。九十五。九十六。九十七。九十八。九十九。一百。

研 究 指 定 作 業 實 施 ノ 概 要

- (一) 淡煙禁火法 每分煙濃淡ヲ自己録シ尚ホ在室ノ連絡ヲ取リ極力淡煙禁火法ヲ研究セシム
- (二) 高力運轉中配員法 機械部補機部ハ直配置在部ノ總員配置(1/2休息)トシ其ノ適否ヲ研究セシム
- (三) 高力運轉中通信傳令法 傳令管=依ル法及傳令管、口達傳令法、比較研究ヲナシ
- (四) 諸補助機械使用程度、適否、方案=依ル使用程度、適否ヲ研究セシム

機 關 効 程 ニ 影 響 セ シ 事 項

教練運轉開始當時尚上甲板=煉炭約三十トアリシヲ吃水相当=深ク尚ホ向ト風ナリシヲ1/2全力ノ場合ニ機械回轉一八〇=對シ約三〇〇馬力ノ力量超過セシヲ以テ1/2全力ノ場合ハ豫定回轉一九五ヲ一八五=改メ施行セシモ尚ホ少超過ヲ示セリ

運 轉 中 實 際 生 シ タ ル 故 障 缺 損 並 處 置

午前九時四十分一。二。三。四。五。六。七。八。九。十。十一。十二。十三。十四。十五。十六。十七。十八。十九。二十。二十一。二十二。二十三。二十四。二十五。二十六。二十七。二十八。二十九。三十。三十一。三十二。三十三。三十四。三十五。三十六。三十七。三十八。三十九。四十。四十一。四十二。四十三。四十四。四十五。四十六。四十七。四十八。四十九。五十。五十一。五十二。五十三。五十四。五十五。五十六。五十七。五十八。五十九。六十。六十一。六十二。六十三。六十四。六十五。六十六。六十七。六十八。六十九。七十。七十一。七十二。七十三。七十四。七十五。七十六。七十七。七十八。七十九。八十。八十一。八十二。八十三。八十四。八十五。八十六。八十七。八十八。八十九。九十。九十一。九十二。九十三。九十四。九十五。九十六。九十七。九十八。九十九。一百。

研 究 ノ 成 果 並 所 見

- (一) 淡煙禁火法 煙火濃淡ハ一般ニ良好ニテ本艦トシテハ相当成績ヲ挙げタリ但シ碎炭法ニ禁火法ハ尚ホ研究ノ餘地アリシヲ認ム
- (二) 高力運轉中配員法 機械部補機部ハ直配置(一時間交代)在部ノ總員配置(1/2休息)ヲ施行セシム本艦高力運轉時最適ノ配員法ト認ム特ニ本艦教練運轉ニ於テ在部總員配置石炭專機ニ發生シ得ル最大力量ハ主機械毎分回轉七六(三=四=馬力)八時間ヲ以テ限度ノスルコトヲ實驗ニ示セリ
- (三) 高力運轉中通信傳令法 本艦ニテハ各室内ノ全部傳令管ノ設備アルニシテ比較的運動ノノ音少ナリ特ニ不便ヲ感セズ先リ現狀ニテ支障ナシ
- (四) 諸補助機械使用程度 方案=依ル使用程度ニ何等支障ヲ認ム"殊ニ主送水唧筒ノ回轉數ハ全一馬力=對シ内地海面ニ於ケル場合=比シ多少ノ増加アルニモ水温度高ト南洋方面ニ於テ發生シ得ル主機械ノ力量=影響スル處ハ僅少ノモト信ス"

第一表

機務長 警備艦 艦長 海軍中佐 峯山 同 機務長 警備艦 艦長 海軍中佐 峯山 同

大正十三年應用教練運轉成績表 (第一次) 七月三十日 於 トラック 間施行

項目	運轉種類		%全力		片航		其他		公試	
	種類	時間	單體	單體	單體	單體	單體	單體	單體	單體
編運	最速	1-0	1-0	1-0	1-0	1-0	1-0	1-0	1-0	1-0
	最高	2-25	2-25	2-15	2-15	2-15	2-15	2-15	2-15	2-15
	最低	2-15	2-10	2-00	2-00	2-00	2-00	2-00	2-00	2-00
	最高	2-15	2-15	2-05	2-05	2-05	2-05	2-05	2-05	2-05
	最低	2-05	2-00	1-90	1-90	1-90	1-90	1-90	1-90	1-90
	右舷機	1-55		9-5	9-5	9-5	9-5	9-5	9-5	9-5
	左舷機	1-50	1-80	9-2	9-2	9-2	9-2	9-2	9-2	9-2
	右舷機									
	左舷機									
	右舷機									
高壓	斷切比	73.5	73.5	73.5	73.5	73.5	73.5	73.5	73.5	73.5
	真空	2-3		2-2	2-2	2-2	2-2	2-2	2-2	2-2
	右舷機	2-3	2-3	2-3	2-3	2-3	2-3	2-3	2-3	2-3
	左舷機	2-3		2-3	2-3	2-3	2-3	2-3	2-3	2-3
	普通排氣	199.8	153.8	153.8	153.8	153.8	153.8	153.8	153.8	153.8
	普通排氣	200.4	200.2	154.1	154.1	154.1	154.1	154.1	154.1	154.1
	平均	200	200	153.8	153.8	153.8	153.8	153.8	153.8	153.8
	實際	200.1	200.2	153.8	153.8	153.8	153.8	153.8	153.8	153.8
	右舷機	2,214.39		818	818	818	818	818	818	818
	左舷機	2,179.4	2,295	782	782	782	782	782	782	782
發生馬力	合計	4,700	3,950	1,600	1,600	1,600	1,600	1,600	1,600	1,600
	實際	4,394.3	3,295	1,600	1,600	1,600	1,600	1,600	1,600	1,600
	速度	13.0	13.0	13.9	13.9	13.9	13.9	13.9	13.9	13.9
	實際	17.8	13.0	13.9	13.9	13.9	13.9	13.9	13.9	13.9
	吃水	10-11/4	10-1/2	10-0	10-0	10-0	10-0	10-0	10-0	10-0
	後部	13-4/4	13-3/2	13-3	13-3	13-3	13-3	13-3	13-3	13-3
	平均	11-8/4	11-8	11-7/2	11-7/2	11-7/2	11-7/2	11-7/2	11-7/2	11-7/2
	平均	11-8/4	11-8	11-7/2	11-7/2	11-7/2	11-7/2	11-7/2	11-7/2	11-7/2
	船上	1.6/0.6	1.5/0.6	1.5/0.6	1.5/0.6	1.5/0.6	1.5/0.6	1.5/0.6	1.5/0.6	1.5/0.6
	後部	138	138	138	138	138	138	138	138	138
船底	清潔	清潔	清潔	清潔	清潔	清潔	清潔	清潔	清潔	
海上	和	和	和	和	和	和	和	和	和	
風向	和	和	和	和	和	和	和	和	和	
風力	和	和	和	和	和	和	和	和	和	
潮流	和	和	和	和	和	和	和	和	和	

0147

第二表  
 船名 備 役  
 大正十三年應用教練運轉成績表 (第一次)

項目	種類	8/10 全力	片断航行	其他應急作業期間	(公試) 全日
補助装置使用程度 (分数)	主给水唧筒	4/4	4/4	4/4	4/4
	主抽乳唧筒	2/2	2/2	2/2	2/2
	煤油油唧筒	2/3	2/3	2/3	3/3
	主给水唧筒	4/4	4/4	4/4	4/4
	送風機	4/4	4/4	4/4	4/4
	噴油用唧筒	2/2	2/2	2/2	2/2
	其他	3/2	1/2	2/2	2/2
	冷却機	2/2	2/2	2/2	2/2
	空氣壓縮唧筒	1/2	1/2	1/2	1/2
	消防唧筒	3/2	3/2	2/2	3/2
發電機	1/2	1/2	1/2	3/2	

機關効程 = 影響セシ事項

前回基本教練運轉、際馬力、超過、來セリ、8/10 全力、テ、予定回轉數、2000 片断航行、際、予定回轉數、2000、2000 = 改メ、ガ、海上、予定、回轉數、力、發、最、適、天、候、ナ、リ、カ、タ、カ、此、回、ハ、及、ツ、テ、予、定、馬、力、ニ、達、セ、ガ、リ、ナ、リ、

運轉、計畫之經過、概要

計畫、運轉、最初、一、時間、ハ、馬、力、運、轉、比、高、力、運、轉、對、比、訓練、ノ、施行、次、一、時間、ハ、  
 主给水唧筒、主抽乳唧筒、煤油油唧筒、主给水唧筒、送風機、噴油用唧筒、其他、冷却機、空氣壓縮唧筒、消防唧筒、發電機、  
 運轉、中、故障、生、シ、タル、故障、欠、損、並、テ、處、置、  
 (一) 主给水唧筒、主抽乳唧筒、煤油油唧筒、主给水唧筒、送風機、噴油用唧筒、其他、冷却機、空氣壓縮唧筒、消防唧筒、發電機、  
 (二) 主给水唧筒、主抽乳唧筒、煤油油唧筒、主给水唧筒、送風機、噴油用唧筒、其他、冷却機、空氣壓縮唧筒、消防唧筒、發電機、  
 (三) 主给水唧筒、主抽乳唧筒、煤油油唧筒、主给水唧筒、送風機、噴油用唧筒、其他、冷却機、空氣壓縮唧筒、消防唧筒、發電機、  
 (四) 主给水唧筒、主抽乳唧筒、煤油油唧筒、主给水唧筒、送風機、噴油用唧筒、其他、冷却機、空氣壓縮唧筒、消防唧筒、發電機、

運轉中實際生シタル故障欠損並テ處置

故障ナシ

(2) 主给水唧筒、主抽乳唧筒、煤油油唧筒、主给水唧筒、送風機、噴油用唧筒、其他、冷却機、空氣壓縮唧筒、消防唧筒、發電機、  
 (一) 主给水唧筒、主抽乳唧筒、煤油油唧筒、主给水唧筒、送風機、噴油用唧筒、其他、冷却機、空氣壓縮唧筒、消防唧筒、發電機、  
 (二) 主给水唧筒、主抽乳唧筒、煤油油唧筒、主给水唧筒、送風機、噴油用唧筒、其他、冷却機、空氣壓縮唧筒、消防唧筒、發電機、  
 (三) 主给水唧筒、主抽乳唧筒、煤油油唧筒、主给水唧筒、送風機、噴油用唧筒、其他、冷却機、空氣壓縮唧筒、消防唧筒、發電機、  
 (四) 主给水唧筒、主抽乳唧筒、煤油油唧筒、主给水唧筒、送風機、噴油用唧筒、其他、冷却機、空氣壓縮唧筒、消防唧筒、發電機、







加牙布

第二表

役務及整備艦  
艦(艇)名 勝 力

大正十三年基應本用教練運轉成績表 (第一次)

項目	運轉ノ種類	基本教練運轉	基本教練運轉	高速航機力試験 (又ハ公試)全力
補助 裝置 使用 程度 (分數)	主送水唧筒	= 分 =	= 分 =	= 分 =
	主抽氣唧筒	= 分 =	= 分 =	= 分 =
	強壓注油唧筒	/	/	/
	油冷却唧筒	/	/	/
	灌水唧筒	/	/	/
	補助復水裝置	✓ 分 -	- 分 -	- 分 -
	主給水唧筒	= 分 =	= 分 =	= 分 =
	補助給水唧筒	/	/	/
	送風機械	= 分 =	= 分 =	= 分 =
	噴燃用重油唧筒	/	/	/
	蒸化器	/	/	/
	冷却機械	/	/	/
	製水機械	/	/	/
	空氣壓搾唧筒	/	/	/
水壓唧筒	/	/	/	
消防唧筒	= 分 =	= 分 =	= 分 =	
發電機械	= 分 =	= 分 =	= 分 =	

運轉ノ計畫並經過ノ概要

午前八時出港 航速十節 回轉ノ分 漸次回轉  
ヲ増加シ 午前九時ヨリ 三時間十分五正 午ヨ  
リ 三時間十分六ヲ施行シ 經過良好ナリ

研究指定作業實施ノ概要

記事ナシ

機關効程ニ影響セシ事項

記事ナシ

研究ノ成果並所見

記事ナシ

運轉中實際生シタル故障缺損並處置

記事ナシ

0150

五二號

大正十三年五月五日吳

駒橋艦長森繁二

海軍大臣村上格一殿

一、大正十三年基本教練運轉成績表(第一表)各一通

右提出ス

(別紙二葉添)

(終)



五月五日



第一表

役務及練習艦 艦艇名 駒橋

艦長(司令) 海軍中佐 森繁

副艦長 海軍少佐 田代三郎

機長 海軍少佐 大野

副機長 海軍少佐 大野

大正十三年 本册 教練運轉成績表 (第一次) 四月十四日 於別府吳所施行

項		運轉ノ種類		高速航續力試験(又ハ公試)全力		項		運轉ノ種類		高速航續力試験(又ハ公試)全力	
編	隊	番	號	單	艦	單	艦	罐	使用數	罐	燃
運	轉	時	間	6	0	1	30	分	數	混	燒
蒸氣壓力(听)	罐室	最	高	170		190		通風(听)	(最高/最低)		0
		最	底	165		189			燃料費額(听)	重油/石炭	9,200.72
	機械室	最	高	170		188		一晝夜B <sub>2</sub> /L		2,000.02	57.744
		最	底	165		187		每時每馬力	1.03	2,900	
高壓滑弁開度	第一	機	械	122		182		燃燒度(听)	混	燒	罐
		機	械	122		181			給	水	費
	第二	機	械					造	水	量	(听)
		機	械					潤	滑	油	費
高壓滑弁開度	第一	機	械	28		28.0		潤滑油(立)	內	部	油
		機	械	28		28.1			外	部	油
	第二	機	械					溫	甲	板	6.3
		機	械						機	械	室
真空(听)	第一	機	械					給(平均)水	罐	室	9.5
		機	械						海	水	6.7
	第二	機	械					潤滑(最高)油	給	水	「タンク」
		機	械						加	熱	器
補助排氣ノ種類	第一	機	械	普通		普通		度(華氏)	冷	却	器
		機	械	普通		普通			冷	却	器
	第二	機	械					發煙狀態	推	力	軸
		機	械						主	軸	承
推進軸每分回轉數	第一	機	械	90.1		118.19		吃水(呎)	前	部	12-11
		機	械	90.1		118.22			後	部	14-11
	第二	機	械					同上ニ對スル排水量	平	均	13-11
		機	械						出	渠	後
發生馬力(實馬力)	第一	機	械	401		929		艦底ノ狀況	淨	穢	
		機	械	462		895			海	上	ノ
	第二	機	械					風向及風力	和		
		機	械						潮	流	↓ 1~2
速力(節)	豫	定	10.0				出	渠	後	ノ	
		實	10.1		10.91			艦	底	ノ	

(備考)

一、數量ノ載記ハ凡テ機關日誌機關月報記註心得ニ依ルモノトス

二、高速航續力試験(又ハ公試)全力欄ニハ赤字ヲ以テ記入スルモノトス

三、燃燒度ハ海軍用語(機關術)ノ定義ニ依ルモノトシ火床面積ハ(GA)燃室容積ハ(OV)受熱面積ハ(HS)ヲ以テ表スルモノトス

關機  
5.10

0152

(第二表)

役務及練習艇  
艦(艇)名 駒橋

大正十三年基用本應教練運轉成績表 (第一次)

項	運轉ノ種類			高速航續力試験 (又→公試)全力
補助 裝置 使用 程度 (分數)	主送水唧筒	2/2		2/2
	主抽氣唧筒	2/2		2/2
	強壓注油唧筒			
	油冷却唧筒			
	灌水唧筒			
	補助復水裝置	1/1		1/1
	主給水唧筒	1/1		1/1
	補助給水唧筒	0		0
	送風機械			
	噴燃用重油唧筒			
	蒸化器	0		0
	冷却機械			
	製氷機械			
	空氣壓搾唧筒	0		0
水壓唧筒				
消防唧筒	1/2		1/2	
發電機械	1/4		1/4	

機關効程ニ影響セシ事項

船底垂換後、日數≒四日ヲ教へ船底汚穢ノ程度甚シ

運轉中實際生シタル故障缺損處置

ナシ

運轉ノ計畫並經過ノ概要

高压滑油圈圧力一〇〇psi毎分回轉數九〇回毎十分五分九〇馬力  
ヲ是レテ運轉ス途中標柱間航走時、船底汚穢ノ程度増進セリ  
高压滑油圈圧力平定シ高カシテ運轉状態頗ル円滑ニテ何等  
故障セシ標柱間航走ニ於テ實測一〇・五節

研究指定作業實施ノ概要

- 一、機関各部ノ整備並ニ乗員ノ訓練程度
- 二、運轉諸元ノ適否
- 三、凍煙運轉法
- 四、主機械並ニ補助機械運轉法操縦法

研究ノ成果並所見

- 一、機関各部ノ整備良好ニシテ主機械並ニ補助機械ノ運轉操縦ハ  
適當ニ行ハレ乗員ノ訓練ハ一般ニ練進進歩セルト認ム
- 二、運轉諸元ノ平定ニシテ適當ナリ且船底汚穢ノ程度亦少シ  
考慮ノ余地アルト認ム
- 三、凍煙運轉法トシテ、焚火時停ヲ短縮シ給炭杯數ヲ少クスル外  
本艇トシテハ操ル可キ所是ナリ然レドモ、円氣取扱並電氣列云ハ給炭  
時停ノ延長ヲ又復是考案スルニ、本力廠ニ於テ時停一介力至一分十秒  
給炭三杯ノ程度ヲ適當ト認ム

十二驅機第一六九號

大正十三年七月二十二日於吳

海軍大臣財部 彪殿

第十二驅逐隊司令江原收治

一、大正十三年第一次基本教練運轉成績表 各壹通

但綾波、磯波七月十日廣島灣ニ於テ施行ノ分

右提出ス

(別紙一紙添)

終

18.7.25  
收

0154

(第一表)

役務及船名 精備隊 船名 波綾 艦長(司令) 江原收治 副艦長 井俊雄 驅逐艦長 八幡元徳 驅逐艦機長 小竹米三

大正十三年 基應 本用 教練 運轉 成績 表 (第一次) 七月十日 於 廣島 灣 施行

項		運轉ノ種類		全カ分八		全カ分八		高速航續力試験 (又ハ公試) 全力		項		運轉ノ種類		全カ分八		全カ分八		高速航續力試験 (又ハ公試) 全力			
編 隊 番 號		單 艦		單 艦		單 艦		單 艦		編 隊 番 號		單 艦		單 艦		單 艦		單 艦			
運 轉 時 間		三 時 間		三 時 間		三 時 間		三 時 間		運 轉 時 間		三 時 間		三 時 間		三 時 間		三 時 間			
蒸 氣 壓 力 (听)	罐 室	最 高	250	250		250		250		通 風 (吋) (最高/最低)	4/4	4/4		4/4		4/4		4/4			
		最 底	220	200		250		250			燃 料 費 額 (噸)	4.0/9.1 B2	4.20/4.0 B2		4.0/9.1 B2		4.20/4.0 B2		4.0/9.1 B2		
	機 械 室	最 高	245	245		245		245		每 時 每 馬 力	1.13 (75)	1.01 (75)		1.13 (75)		1.01 (75)		1.13 (75)			
		最 底	215	225		245		245			燃 燒 度 (配)	1.27	1.56		1.27		1.56		1.27		
	高 壓 滑 弁 開 又 (マニピュレーター) 入 口	右 舷 機 械	110	120		186		186		給 水 費 額 (噸)		1.2	1.5		1.2		1.5		1.2		
		左 舷 機 械	110	120		186		186			造 水 量 (噸)	0	0.8		0		0.8		0		
		機 械										潤 滑 油 費 額 (立)	0.7	0.8		0.7		0.8		0.7	
		機 械											溫 度 (華氏)	40	50		40		50		40
	高 壓 滑 弁 開 切 比	右 舷 機 械	79.0	79.0		76.8		76.8		甲 板 機 械 室 海 水				82	86		82		86		82
		左 舷 機 械	79.0	79.0		77.0		77.0			給 水 「タンク」 加 熱 器 出 口			98	100		98		100		98
機 械									冷 却 器 入 口			96		98		96		98		96	
機 械												冷 却 器 出 口	94	95		94		95		94	
真 空 (吋)	右 舷 機 械	26.5	25.5		20		20			潤 滑 油 (最高)			82	82		82		82		82	
	左 舷 機 械	26.0	25.0		23.2		23.2				推 力 軸 承 主 軸 承		170	175		170		175		170	
	機 械								發 煙 狀 態				2	1		2		1		2	
	機 械											吃 水 (呎-吋)	7-7	7-6		7-7		7-6		7-7	
補 助 排 氣 ノ 種 類	普 通 排 氣				普 通 排 氣		普 通 排 氣			同 上 = 對 ス ル 排 水 量			6-3	6-2		6-3		6-2		6-3	
	兩 舷 機 械				兩 舷 機 械		兩 舷 機 械				出 渠 後 ノ 日 數		6-11	6-10		6-11		6-10		6-11	
	主 機 械 使 用 區 分	右 舷 機 械	266.0	281.0		345.6		345.6					艦 底 ノ 狀 況	437	432		437		432		437
		左 舷 機 械	267.5	282.8		348.5		348.5				海 上 ノ 模 樣		20	20		20		20		20
機 械									風 向 及 風 力	淨				淨		淨		淨		淨	
機 械										潮 流	和			和		和		和		和	
推 進 軸 每 分 回 轉 數	平 均	265	280		380		380				風 向 及 風 力		不 詳	不 詳		不 詳		不 詳		不 詳	
	豫 定											網 流	不 詳	不 詳		不 詳		不 詳		不 詳	
	實 際	266.7	281.9		347		347		速 力 (節)				不 詳	不 詳		不 詳		不 詳		不 詳	
	機 械	1475	1475		2878		2878			速 力 (節)			不 詳	不 詳		不 詳		不 詳		不 詳	
發 生 馬 力 (實馬力)	右 舷 機 械	1475	1475		2878		2878				速 力 (節)		不 詳	不 詳		不 詳		不 詳		不 詳	
	左 舷 機 械	1475	1475		2878		2878					速 力 (節)	不 詳	不 詳		不 詳		不 詳		不 詳	
	機 械								速 力 (節)				不 詳	不 詳		不 詳		不 詳		不 詳	
	機 械									速 力 (節)			不 詳	不 詳		不 詳		不 詳		不 詳	
合 計	豫 定	2,410	2,200		6,000		6,000				速 力 (節)		不 詳	不 詳		不 詳		不 詳		不 詳	
	實 際	2,812	2,407		6,768		6,768					速 力 (節)	不 詳	不 詳		不 詳		不 詳		不 詳	
	豫 定	20.5	21.5		29.0		29.0		速 力 (節)				不 詳	不 詳		不 詳		不 詳		不 詳	
	實 際	20.85	21.26		26.98		26.98			速 力 (節)			不 詳	不 詳		不 詳		不 詳		不 詳	

(備考) 一、燃燒度ハ海軍用語(機關術)ノ定義ニ依ルモノトシ火床面積ハ(GA)燃室容積ハ(OV)受熱面積ハ(HS)ヲ以テ表スルモノトス 二、高速航續力試験(又ハ公試) 全力欄ニハ赤字ヲ以テ記入スルモノトス 三、數量ノ

第二表

艦(艇)名第十一駆逐隊綾波

大正十三年基用教練運轉成績表 (第一次)

Table with columns for equipment type (運轉ノ種類), usage status (全カ分八六割, 全カ分八七割), and high-speed endurance test results (高速航績力試験).

機關効程ニ影響セシ事項

Table showing engine efficiency factors and their impact, with columns for year (一, 二, 三, 四) and values.

Text describing engine efficiency issues, mentioning factors like fuel temperature and oil quality.

運轉中實際生シタル故障缺損處置

記事十二 (Notes on engine operation and maintenance issues).

運轉ノ計畫並經過ノ概要

一、計畫 (一) 運轉力及最近修理公試運轉最大力量十分八十分七及十分六ノ以テ實施ス...

研究指定作業實施ノ概要

一、定機空自熱電氣路檢點ノ為故障檢査減減 作業 面自熱電氣路檢點功新機檢査適宜...

研究ノ成果並所見

一、機關狀態 於此各指點、指點法、機關取組、機關科指點等一初機檢査有テ一般指點指點...

之レヲ要スル本運轉、嚴密終始ノ與、行ハ運轉ノ目的ヲ達成セルモノト認ム

(第 一 表)

役務及整備兼練習艦隊 艦長(司令)海軍中佐 江原 俊 艦長(司令)海軍中佐 江原 俊  
 艦艇名十一号駆逐艦 艦長(司令)海軍中佐 江原 俊 艦長(司令)海軍中佐 江原 俊

大正十三年 基 本 用 教 練 運 轉 成 績 表 (第 一 次) 七 月 十 日 於 廣 島 灣 施 行

運轉ノ種類		全効八割		全効七割		高速航續力試験(又ハ公試)全力		運轉ノ種類		全効八割		全効七割		高速航續力試験(又ハ公試)全力	
項 目	運 轉 時 間	單 艦	單 艦	單 艦	單 艦	單 艦	單 艦	項 目	運 轉 時 間	單 艦	單 艦	單 艦	單 艦	單 艦	單 艦
編 隊 番 號	運 轉 時 間							罐 使 用 數 (分 數)							
運 轉 時 間								通 風 (時) (最 高 / 最 低)							
蒸 氣 壓 力 (听)	最 高	250	250					燃 料 費 率 (每 時 每 馬 力)	重 油 / 石 炭						
	最 底	240	230				一 晝 夜 B <sub>2</sub> 換 算		0.27 <sup>B</sup>	2.0	260 <sup>B</sup>	19.5	3.5 <sup>B1</sup>		
	右 舷 機 械	245	245					每 時 每 馬 力	70.0 <sup>B2</sup>	28.0 <sup>B2</sup>	178.6 <sup>B2</sup>	1.23			
	左 舷 機 械	235	225					每 漚	1.07 <sup>B</sup>	1.14 <sup>B</sup>	1.23				
	右 舷 機 械	205	120					燃 燒 度 (時)	0.14	0.16	0.28				
	左 舷 機 械	105	120					混 燒 罐							
高 壓 滑 油 切 比	右 舷 機 械							給 水 費 額 (時)	13.0	16.7	33.8				
	左 舷 機 械							進 水 量 (時)	0.9	1.0					
	機 械							潤 滑 油 費 額 (立)	0.7	0.6					
真 空 (時)	右 舷 機 械	76.8	76.8					內 部 油	0.5	0.6	0.8				
	左 舷 機 械	76.8	76.8					外 部 油	1.8	2.2					
	機 械							甲 板	2.2	2.6					
補 助 排 氣 / 種 類	右 舷 機 械	26.7	26.5					機 械 室	10.5	10.6	9.2				
	左 舷 機 械	26.6	26.3					罐 室	10.0	10.0	6.8				
	機 械							海 水	7.4	7.5	5.3				
推 進 軸 每 分 回 轉 數	右 舷 機 械	270.5	255.9					給 水 「タンク」	2.6	2.7	2.6				
	左 舷 機 械	269.2	255.7					加 熱 器 出 口	17.0	19.2	13.0				
	機 械							冷 却 器 入 口							
發 生 馬 力 (軸 馬 力)	平 均	270	256					冷 却 器 出 口							
	豫 定	270	256					推 力 軸 承							
	實 際	269.9	255.8					主 軸 承							
速 力 (節)	右 舷 機 械	13.64	13.16					發 煙 狀 態							
	左 舷 機 械	13.69	13.13					混 燒 罐	2	1					
	機 械							前 部	6'-3"	6'-2"	6-9 <sup>3/8</sup>				
豫 定	合 計	2700	3200					後 部	7'-3"	7'-2"	6-4 <sup>7/16</sup>				
	實 際	2733	3229					平 均	6'-9"	6'-8"	6-6 <sup>15/16</sup>				
	實 際	20.5	21.5					同 上 = 對 スル 排 水 量	450	442	435				
實 際	出 渠 後 / 日 數							艦 底 / 狀 況	20	20	15				
	海 上 / 模 樣							風 向 及 風 力	淨	淨	淨				
	風 向 及 風 力							潮 流	和	和	和				

(備 考)

一、燃 燒 度 ハ 海 軍 用 語 (機 關 術) ノ 定 義 ニ 依 ル モ ノ ト シ 火 床 面 積 ハ (GA) 燃 室 容 積 ハ (OV) 受 熱 面 積 ハ (HS) ヲ 以 テ 表 ス ル モ ノ ト ス  
 二、高 速 航 續 力 試 驗 (又 ハ 公 試) 全 力 欄 ニ ハ 赤 字 ヲ 以 テ 記 入 ス ル モ ノ ト ス  
 三、數 量 ノ 載 記 ハ 凡 テ 機 關 日 誌 機 關 月 報 記 註 心 得 ニ 依 ル モ ノ ト ス

0157

役務及警備兼練習艦隊  
艦(艇)名十一駆逐隊磯波

大正十三年基本用教練運轉成績表 (第一次)

Table with columns for equipment type (e.g., 主送水唧筒, 主抽水唧筒), performance metrics (全外分八割, 全外分八七割), and status (e.g., 使用せず, 装備ナシ).

機關効程ニ影響セシ事項

- 一、最近艦内外部掃除後使用時数...
二、給水加熱器、或個共使用本艦トハ表計載、温度附近ヲ以テ最大効力ヲ發揮スルコト認ム
三、重油加熱温度、規定値百八十五度、容易ニ保持スルヲ得重油混入充分効力ヲ發揮スル(噴燃器中心部温度74)

運轉中實際生シタル故障缺損處置

記 事 ナシ

運轉ノ計畫並經過ノ概要

計畫 (一)運轉後最近修理公試運轉最大効力十分八十分七割及十分六割ヲ以テ實施ス
(二)運轉連續六時間ト次ノ項目ニ分ツ
發生効力二千七百馬力ヲ以テ三時間連續ニ引續キ發生効力三千七百馬力ヲ以テ三時間連續ス
(三)始二時間海軍製第一種煤炭燒後、三時間重油混焼ス
二、經過ノ概要 午前九時四十分漸次回轉ヲ増加シ、午前十時運轉開始シ、所多田島鞍掛島間ヲ航ス
標槍開走成績概要、標槍開走距離12.042海里馬力2733回轉數毎分平均273.0
(三)始三時間全外十分六割運轉後漸次回轉ヲ増加シ、全外十分八割ニ達シ三時間重油混焼ヲ行フ

研究指定作業實施ノ概要

- 一、想定 噴燃器自然燃焼時、或噴燃器故障時、或噴燃器故障時、或噴燃器故障時...
二、想定 噴燃器自然燃焼時、或噴燃器故障時、或噴燃器故障時...
三、想定 噴燃器自然燃焼時、或噴燃器故障時、或噴燃器故障時...
四、想定 噴燃器自然燃焼時、或噴燃器故障時、或噴燃器故障時...

研究ノ成果並所見

- 一、噴燃器自然燃焼時、或噴燃器故障時、或噴燃器故障時...
二、噴燃器自然燃焼時、或噴燃器故障時、或噴燃器故障時...
三、噴燃器自然燃焼時、或噴燃器故障時、或噴燃器故障時...
四、噴燃器自然燃焼時、或噴燃器故障時、或噴燃器故障時...
五、噴燃器自然燃焼時、或噴燃器故障時、或噴燃器故障時...
六、噴燃器自然燃焼時、或噴燃器故障時、或噴燃器故障時...
七、噴燃器自然燃焼時、或噴燃器故障時、或噴燃器故障時...
八、噴燃器自然燃焼時、或噴燃器故障時、或噴燃器故障時...
九、噴燃器自然燃焼時、或噴燃器故障時、或噴燃器故障時...
十、噴燃器自然燃焼時、或噴燃器故障時、或噴燃器故障時...
十一、噴燃器自然燃焼時、或噴燃器故障時、或噴燃器故障時...
十二、噴燃器自然燃焼時、或噴燃器故障時、或噴燃器故障時...

士第 一八號 一五

大正十三年八月十九日於吳

海軍大臣財部 鈺殿

第十一號 隊司令江原收治



一、驅逐艦、綾波、破波、長月、浦波、鷹南、教練、連、艇、成績表、各一通  
右提出又

(別紙添付)

知

八月廿二日  
任房受

0159



第一表

役務及艦艇名		艦長(司令)		副艦長		機長		副機長		機師		副機師			
第一駆逐隊 波		海軍中佐 江原收治		海軍大尉 八尾元徳		海軍大尉 小竹末三		海軍中尉 萩井俊彦		海軍中尉 小竹末三		海軍中尉 小竹末三			
<p align="center">大正十三年 本用 教練 運轉 成績 表 (第一次) 月 於 日 施行</p>															
項	運轉ノ種類		全カノ入	入割	高速航續力試験 (平均公試)全力	項	運轉ノ種類		全カノ入	入割	高速航續力試験 (平均公試)全力	項	運轉ノ種類		
	目	目					目	目					目	目	目
編隊番號	第一番艦				第一艦	第一番艦				第一艦	第一番艦				
編運轉時間	三時間				二時間	三時間				二時間	三時間				
蒸氣壓力(听)	罐室	最高	25.0		25.0	通風(吋)	最高/最低	27/12		27/12	燃料費(听)	重油/石炭	44/69.5		44/69.5
		最低	23.5		25.0		一晝夜B	130.4		201.8B <sub>2</sub>					
	機械室	最高	24.5		24.8	燃焼度(听)	每時每馬力	131.4		1.43					
		最低	23.0		24.8		每 湮	0.240		0.319					
	高壓弁弁口又	右舷	機械	13.5		18.6	給水費額(吨)	混焼罐	24.7		33.2				
		左舷	機械	13.5		18.6		造水量(吨)	0.4						
機械						潤滑油費額(立)		内部油	0.8		不詳				
高壓箱斷切比	數(分數)	右舷 機械	29.0		71.8	温度	外部油	50.0							
	若ハ噴口使用	左舷 機械	29.0		77.0		甲板	80							
真空(吋)	右舷	機械	24.8		20	湿度(華氏)	機械室	120		95					
		機械	25.2		23.2		罐室	100		76					
	左舷	機械					海水	80		54					
		機械					給水「タンク」	90		85					
補助排氣ノ種類	普通排氣				普通排氣	加水均	加熱器出口	175		171					
	兩舷機械				兩舷機械		潤滑油(最高)	冷却器入口							
主機使用區分	右舷	機械	297.1		345.6	發煙狀態		冷却器出口	裝備ナシ		裝備ナシ				
		機械	297.5		348.5		推力軸承								
	左舷	機械					主軸承								
		機械					發煙狀態	混焼罐	2033		不詳				
推進軸每分回轉數	平均	豫定	295.0		380	吃水(呎)	前部	7-2"		6-7 1/2"					
	實際	297.3		347	後部		6-9"		6-7 1/2"						
發生馬力(軸馬力)	右舷	機械	2173		2879	同上=對スル排水量	平均	6-10 1/2"		6-7 1/2"					
		機械	1972		2889		出渠後ノ日數	99		17					
	左舷	機械				艦底ノ狀況	海上ノ模様	和		和					
		機械					風向及風力	0.0321		1					
合計	豫定	3650		6000	潮流		不詳		順逆						
	實際	4145		5769											
速力(節)	豫定	22.4		29.0											
	實際	22.6		25.98											

(備考)  
 一、燃焼度ハ海軍用語(機關術)ノ定義ニ依ルモノトシ火床面積ハ(GA)燃室容積ハ(OV)受熱面積ハ(HS)ヲ以テ表スルモノトス  
 二、高速航續力試験(又ハ公試)全力欄ニハ赤字ヲ以テ記入スルモノトス  
 三、數量ノ載記ハ凡テ機關日誌機關月報記註心得ニ依ルモノトス

0160

(第二表)

役務及艦(艇)名 第一駆逐隊 綾波

大正十三年基應本用教練運轉成績表 (第一次)

Table with columns for equipment type (運轉ノ種類), usage status (余カ十分ハ八割), and performance metrics (高速航続力試験).

機關効程ニ影響セシ事項

Table listing factors affecting engine efficiency, such as '最近艦内外掃除後使用時数' and '給水加熱器ハ'.

運轉中實際生シタル故障缺損處置

記事ナシ

運轉ノ計畫並經過ノ概要

計畫 (一) 本運轉ハ綾波磯波ノ順ニシテ二隻編隊ヲ以テ行フ (二) 運轉力使ハ余カ十分ハ八割ヲ以テ実施ス

研究指定作業實施ノ概要

概観 (一) 前年度ニ於テ本艦ノ各種機器ノ性能ノ比較的ニ劣リテ居ル事ヲ以テ本年ノ運轉中ニ於テ各種機器ノ性能ノ向上ヲ期ス

研究ノ成果並所見

1. 本艦ノ各種機器ノ性能ノ比較的ニ劣リテ居ル事ヲ以テ本年ノ運轉中ニ於テ各種機器ノ性能ノ向上ヲ期ス

第一表

役務及整備兼練習艦隊 艦艇名 第一号巡洋艦 波  
 艦長(司令) 海軍中佐 江原 收治  
 機長 海軍機長 佐藤 俊夫  
 驅逐艦長 海軍大尉 高間 完  
 驅逐艦機長 海軍中尉 村田 清一

大正十三年 本用 教練 運轉 成績 表 (第一次) 八月 八日 於 龍崎 灣 施行

運轉ノ種類		項目		高速航續力試験 (又ハ公試) 全力		運轉ノ種類		項目		高速航續力試験 (又ハ公試) 全力			
日		金力拾八八割		修理		日		金力拾八八割		修理			
編隊番號	2					罐使用數 (分數)	罐	4/4					
運轉時間	3-0					通風 (吋) (最高/最低)		2-1					
蒸氣壓力 (吋)	罐室	最高	250			燃料費額 (噸)	重油/石炭	2.3					
		最低	245				一晝夜B換算	11.7					
	機械室	最高	245			每時每馬力	每	1.35					
		最低	240				湮	0.230					
		右舷機械	140				燃燒度 (面)	罐					
		左舷機械	140					混燒罐	23.7				
高壓滑弁園又					給水費額 (噸)	1.2							
					造水量 (噸)	0.6							
高壓滑斷切比	數 (分數)	右舷機械	76.8			潤滑油費額 (立)	內部油	0.6					
		左舷機械	76.8				外部油	2.2					
	若ハ噴口使用					溫度 (華氏)	甲板	84.6					
							機械室	106					
真空 (吋)	右舷機械	25.7			罐室		108						
	左舷機械	25.6			海水		80						
補助排氣ノ種類	普通排氣				給水「タンク」	109							
主機械使用區分	兩舷機械				加熱器出口	160							
推進軸每分回轉數	右舷機械		298.8			潤滑 (最高)	冷却器入口						
		左舷機械	297.8				冷却器出口	裝備ナシ					
	平均	豫定	300.0			推力軸承							
		實際	298.3			主軸承							
發生馬力 (軸馬力)	右舷機械		3897			發煙狀態	混燒罐	2乃至3					
		左舷機械	3818				吃水 (呎-吋)	前部	8'-0"				
	合計	豫定	3840			後部	6'-0"						
		實際	3858			平均	7'-0"						
速力 (節)	豫定	22.4			同上ニ對スル排水量	474							
	實際	22.6			出渠後ノ日數	99							
					艦底ノ狀況	補汚							
					海上ノ模様	和							
					風向及風力	0-1							
					潮流	不評							

(備考) 一、燃燒度ハ海軍用語(機關術)ノ定義ニ依ルモノトシ火床面積ハ(GA)燃室容積ハ(OV)受熱面積ハ(ES)ヲ以テ表スルモノトス  
 二、高速航續力試験(又ハ公試)全力欄ニハ赤字ヲ以テ記入スルモノトス  
 三、數量ノ載記ハ凡テ機關日誌機關月報記註心得ニ依ルモノトス



第一表

勤務及整備兼練習艇 艦艇名 第二艦隊 長月  
 艦長(司令) 海軍中佐 江原政治  
 機長 海軍少佐 荻井俊雄  
 副艦長 海軍大尉 高橋 謙  
 副機長 海軍少佐 山本 清

大正十三年 基 本 用 教 練 運 轉 成 績 表 (第 一 次) 八 月 八 日 於 周 防 灘 施 行

運轉ノ種類		全月(回割)		高速航績力試験(又ハ公試)全力		運轉ノ種類		全月(回割)		高速航績力試験(又ハ公試)全力						
項	目	單	艦	單	艦	單	艦	單	艦	單	艦					
編 隊 番 號	運 轉 時 間	單	艦	單	艦	單	艦	單	艦	單	艦					
蒸 氣 壓 力 (听)	最 高	200		平均	221	通 風 (時) (最高/最低)	1 1/4 / 1	燃 料 費 額 (聽)	重 油 / 石 炭	0 / 12.6 B <sub>2</sub>	15.000 E					
高 壓 滑 油 切 比	最 底	190		平均	214	燃 料 費 額 (聽)	一 晝 夜 B <sub>2</sub> / 手	75.6	燃 燒 度 (聽)	石 炭 專 燒 罐	34.9					
	最 高	195		平均	214		每 時 每 馬 力	1.208 (聽)		混 燒 罐	19.09					
	右 舷 機 械	96		平均	214	每 漚	0.158	給 水 費 額 (聽)	1.92	給 水 量 (聽)	1.8					
	左 舷 機 械	93		平均	214	潤 滑 油 費 額 (立)	內 部 油	2	造 水 量 (聽)	1.8	外 部 油	50				
真 空 (听)	右 舷 機 械	27.5		平均	214	溫 度 (華 氏)	甲 板	87	發 煙 狀 態	石 炭 專 燒 罐	18.52	吃 水 (呎-吋)	前 部	7-10		
	左 舷 機 械	27.5		平均	214		機 械 室	120		混 燒 罐			後 部	7-9		
	右 舷 機 械	27.0		平均	214		機 械 室	95		給 水 「タンク」	85		平 均	7-9 1/2		
	左 舷 機 械	26.5		平均	214		海 水	78		加 熱 器 出 口	180		同 上 = 對 ス ル 排 水 量	499		
補 助 排 氣 / 種 類	普 通 排 氣			普 通 排 氣		給 水 (平均)	加 熱 器 出 口	180	出 渠 後 ノ 日 數	13	艦 底 ノ 狀 況	淨				
主 機 械 使 用 區 分	右 舷 機 械	260.5		右 舷 機 械	361.6	潤 滑 (最高)	冷 却 器 入 口	裝 備 + 2	海 上 ノ 模 樣	和	風 向 及 風 力	0~1				
推 進 軸 每 分 回 轉 數	左 舷 機 械	260.8		左 舷 機 械	361.4	發 煙 狀 態	冷 却 器 出 口	裝 備 + 2	風 潮 流	不 詳	潮 流	不 詳				
	機 械			機 械			推 力 軸 承			同 上 = 對 ス ル 排 水 量		499	出 渠 後 ノ 日 數	13		
	機 械			機 械			主 軸 承					艦 底 ノ 狀 況		淨	海 上 ノ 模 樣	和
	平 均	2600		平 均	3800		發 煙 狀 態	石 炭 專 燒 罐						18.52		風 向 及 風 力
實 際	260.6		實 際	361.5	混 燒 罐		吃 水 (呎-吋)	前 部	7-10		同 上 = 對 ス ル 排 水 量			499		
右 舷 機 械	2446		右 舷 機 械	3080.2	發 煙 狀 態	混 燒 罐			後 部	7-9			艦 底 ノ 狀 況	淨		
左 舷 機 械	2440		左 舷 機 械	3051.2	發 煙 狀 態	石 炭 專 燒 罐		18.52	平 均	7-9 1/2		海 上 ノ 模 樣		和		
機 械			機 械		發 煙 狀 態	混 燒 罐			同 上 = 對 ス ル 排 水 量	499				風 向 及 風 力	0~1	
機 械			機 械		發 煙 狀 態	石 炭 專 燒 罐	18.52	出 渠 後 ノ 日 數	13	艦 底 ノ 狀 況	淨					
合 計	2440		合 計	6000	發 煙 狀 態	混 燒 罐		海 上 ノ 模 樣	和		風 向 及 風 力		0~1			
豫 定	20		豫 定	29	發 煙 狀 態	石 炭 專 燒 罐	18.52	風 潮 流	不 詳			潮 流	不 詳			
實 際	20		實 際	27.03	發 煙 狀 態	混 燒 罐		同 上 = 對 ス ル 排 水 量	499				出 渠 後 ノ 日 數	13		

(備考)  
 一、燃燒度ハ海軍用語(機關術)ノ定義ニ依ルモノトシシ火床面積ハ(GA)燃室容積ハ(OV)受熱面積ハ(HS)ヲ以テ表スルモノトス  
 二、高速航績力試験(又ハ公試)全力欄ニハ赤字ヲ以テ記入スルモノトス  
 三、數量ノ載記ハ凡テ機關日誌機關月報記註心得ニ依ルモノトス

0164

第二表

役務及 艦(艇)名

大正十三年基木用教練運轉成績表 (第一次)

Table with columns for equipment type (運轉ノ種類), status (於ノ四割), and test results (運轉成績試驗). Rows include items like 主送水唧筒, 主抽氣唧筒, etc.

機關効程ニ影響セシ事項

Text describing factors affecting engine efficiency, such as fuel quality and maintenance status.

運轉中實際生シタル故障缺損處置

Text detailing specific incidents and their resolutions during the engine operation.

運轉ノ計畫並經過ノ概要

Summary of the operation plan and progress, including start time, duration, and distance covered.

研究指定作業實施ノ概要

Summary of the implementation of research-specified tasks, detailing experimental procedures and observations.

研究ノ成果並所見

Summary of research results and observations, including findings on engine performance and fuel efficiency.

第一表

役務及警備訓練艦 艦長(司令)海軍中佐 坂原收治  
 艦名 第十二駆逐隊 浦波 機関長海軍少佐 萩井俊雄  
 驅逐艦長 海軍大尉 稻垣美徳  
 驅逐艦機関長 海軍少佐 立野七郎

大正十三年 基 本 用 教 練 運 轉 成 績 表 (第 一 次) 八月 八 日 於 廣 島 海 軍 施 行

項 目	運轉ノ種類		全力十分八		高速航線力試験 (英一公試)全力 處理	項 目	運轉ノ種類		全力十分八		高速航線力試験 (英一公試)全力 處理	
	六割	七割	六割	七割			六割	七割				
編 隊 番 號	單 艦		單 艦		單 艦	罐 使 用 數 (分 數)	罐 混 燒 罐				罐 混 燒 罐	
運 轉 時 間	三 時 間		三 時 間		= 時 間 〇 分	通 風 (吋) (最高/最低)	1 1/2 / 1		1 1/4 / 1/2		2 / 2	
蒸 氣 壓 力 (吋)	罐 室	最 高	25.0	25.0	25.0	燃 料 費 額 (噸)	重 油 / 石 炭	2.0 / 8.6 B2		2.0 / 14.6 B2		
		最 底	24.6	24.8	25.0		一 晝 夜 B 2 手	68.8 B2		81.6 B2		175.5 B2
	機 械 室	最 高	24.6	24.6	24.5	每 時 每 馬 力	0.99 90.		1.0 / 7.1		1.0	
		最 底	24.2	24.4	24.5	每 漚	0.12 9		0.15 8		0.27 6	
	高 壓 滑 弁 園 又 (ハタルピン)入口	右 舷 機 械	10.5	12.0	19.0	燃 燒 度 (噸)	罐 混 燒 罐	13.0		15.5		28.7
		左 舷 機 械	10.5	12.0	19.0		給 水 費 額 (噸)	1.0		1.2		不 詳
機 械					造 水 量 (噸)		1.2		1.3			
高 壓 管 斷 切 比 若ハ噴口使用 數(分數)	右 舷 機 械	78.0	78.0	78	潤 滑 油 費 額 (立)	內 部 油	0.6		0.7		0.4	
	左 舷 機 械	78.0	78.0	78		外 部 油	2.8		4.6		6.0	
	機 械				溫 度 (華 氏)	甲 板	2.8		8.6		5.2	
	機 械					機 械 室	10.6		10.8		9.5	
真 空 (吋)	右 舷 機 械	26.0	26.0	24	罐 室	10.2		10.0		7.6		
	左 舷 機 械	26.0	25.7	24	海 水	9.2		7.9		5.4		
補 助 排 氣 ノ 種 類	普 通 排 氣		△ 右		給 水 (平均)	給 水 「タ ン ク」	8.5		8.5		8.5	
	兩 舷 機 械		全 右		普 通 排 氣	加 熱 器 出 口	1.8		1.8		1.8	
主 機 械 使 用 區 分	右 舷 機 械	機 械	275.3	290.1	355.2	潤 滑 油 (最高)	冷 却 器 入 口	裝 備 ナシ		裝 備 ナシ		
		機 械	275.4	290.2	355.8		冷 却 器 出 口	裝 備 ナシ		裝 備 ナシ		
	平 均	豫 定	275.0	290.0	380	發 煙 狀 態	罐 混 燒 罐	1.5 2		1		不 詳
		實 際	275.4	290.2	355.5		吃 水 (呎-吋)	前 部	8-5		8-2	
推 進 軸 每 分 回 轉 數	右 舷 機 械	機 械	1425	1691	3006	後 部	6-5		6-4		7-6	
		機 械	1459	1699	3082	平 均	7-4 1/2		7-3		7-5	
	合 計	豫 定	2880	3360	6000	同 上 = 對 ス ル 排 水 量	306		491		801	
		實 際	2896	3370	6088	出 渠 後 ノ 日 數	13		13		15	
發 生 馬 力 (實馬力)	機 械	機 械	20.5	21.5	29.0	艦 底 ノ 狀 況	清 淨		清 淨		淨	
		機 械	20.3	21.5	26.38	海 上 ノ 模 樣	和		和		和	
速 力 (節)	豫 定	機 械	20.5	21.5	29.0	風 向 及 風 力	4.0 ~ 1		4.0 ~ 2		4.2	
		實 際	20.3	21.5	26.38	潮 流	不 詳		詳		不 詳	

(備考)

一、燃燒度ハ海軍用語(機關術)ノ定義ニ依ルモノトシ火床面積ハ(GA)燃室容積ハ(OV)受熱面積ハ(HS)ヲ以テ表スルモノトス  
 二、高速航線力試験(又ハ公試)全力欄ニハ赤字ヲ以テ記入スルモノトス  
 三、數量ノ載記ハ凡テ機關日誌機關月報記註心得ニ依ルモノトス





機密

第八號

大正十三年九月十日於長

海軍大臣財部彪殿

第十二驅逐隊司令江原收治

大正十三年應用教練運轉成績表  
右提出又

老通

九月十二日  
官房受



12/2

0168

第一表

役務及艦名 艦長(司令) 海軍中佐 江原收光 副艦長 海軍大尉 柏垣義和 機関長 海軍少佐 佐藤井俊雄 副艦長 海軍中尉 立野七郎

大正十三年 應用教練運轉成績表 (第一次) 九月四日 於伊豫灘及近海施行

項		運轉ノ種類		全力十分八割		高速航續力試験(英公試)全力		項		運轉ノ種類		全力十分八割		高速航續力試験(英公試)全力	
編隊		時		間		間		目		目		目		目	
蒸氣壓力(听)	罐室	最高	230			250		罐使用數(分數)	混燒罐	4/4			4/4		
		最低	242			250			通風(听)(最高/最低)		2/1			2/2	
	機械室	最高	246			245		燃料費額(每時每馬力)		重油/石炭	2.2/2.2			2.0/1.46	
		最低	238			245			一晝夜B	117.1			115.3		
	高壓滑弁圍又	右舷機械		136			190		每時每馬力		1.24			1.0	
				137			190			每	0.221			0.246	
		左舷機械		/			/		燃燒度(听)	罐	/			/	
				/			/			混燒罐	22.0			22.7	
	高壓滑弁圍又	右舷機械		28.0			28		給水費額(聽)		1.5			1.5	
				28.0			28			造水量(聽)	1.3			1.3	
左舷機械			/			/		潤滑油費額(立)	內部油	0.8			0.4		
			/			/			外部油	5.0			6.0		
眞空(吋)	右舷機械		25.0			24		甲板		2.5			5.2		
			24.9			24			機械室	10.2			9.5		
	左舷機械		/			/		罐室	8.9			11.5			
			/			/		海水	8.1			5.4			
補助排氣ノ種類	普通排氣		普通排氣			普通排氣		給水(平均)	給水「タンク」	8.5			8.5		
			普通排氣			普通排氣			加熱器出口	18.0			18.0		
	西舷機械		295.3			255.2		潤滑(最高)	冷却器入口	/			/		
			295.2			255.8			冷却器出口	12			12		
推進軸每分回轉數	右舷機械		295.0			280		度(華氏)	推力軸承	12			12		
			295.2			280			主軸承	12			12		
	左舷機械		295.0			280		發煙狀態	罐	/			/		
			295.2			280			混燒罐	17.2			17.2		
發生馬力(管馬力)	右舷機械		1918			2006		吃水(呎-吋)	前部	7'-5"			7'-4"		
			1985			2082			後部	5'-9"			5'-6"		
	左舷機械		1918			2006		平均	7'-1"			7'-5"			
			1985			2082		同上=對スル排水量	4.8			5.1			
速力(節)	豫定		3.860			6.000		出渠後ノ日數		4.0			1.5		
			3.900			6.088			艦底ノ狀況	淨			淨		
	實際		3.860			6.088		海上ノ模様		和			和		
			3.900			6.088			風向及風力	3.0~1			2		
豫定		22.4			29.0		潮流		不詳			不詳			
		22.0			26.38										

(備考) 一、燃燒度、海軍用語(機關術)ノ定義ニ依ルモノトシ火床面積ハ(GA)燃室容積ハ(OV)受熱面積ハ(HS)ヲ以テ表スルモノトス  
二、高速航續力試験(又ハ公試) 全力欄ニハ赤字ヲ以テ記入スルモノトス  
三、數量ノ載記ハ凡テ機關日誌機關報記註心得ニ依ルモノトス



第三表

役務及潜水艦名  
海軍省水學校  
神戶海軍工廠  
潜水艦第二十五号潜水艦

司令官  
海軍中佐  
根角介  
海軍大尉  
道野清  
潜水艦長  
海軍大尉  
石崎龍一  
潜水艦機關長  
海軍大尉  
石崎龍一

大正十二年 潜水艦 基本册 教練運轉成績表 (第一次) 三月二十二日 於高松兵團施行

項目		6/10全力	7/10全力	高速航續力試験 (又ハ公試全力)	項目		6/10全力	7/10全力	高速航續力試験 (又ハ公試全力)	
編隊番號	運轉時間	3-0	3-0	4-0	速度(節)	豫定	14.0	14.6	17.00	
使用箱數	噴射燃料	12/12	12/12	12/12	實際	實際	14.2	15.0	16.88	
力 (匁)	噴射空氣	246	239	251	甲	板	50	50	/	
	噴射空氣	246	239	261	機	內	63	62		
	壓搾唧筒	/	/	/	械	室	59	60		78
	掃除空氣	/	/	/	電	機	65	69		56
	箱冷却水	0.99	0.99	0.9	海	水	48	48		94
	吸冷却(水油)	/	/	/	注油冷却器出口		12	81		94
	軸注油	-0.83	-0.85	-0.42	箱出口(平均)					88
	滑頭注油	0.96	0.99	0.94	吸鋸出口(平均)					88
	發(噴射)點(度)	-18	-16	+14.9	冷却器入口		87	110		88
	發(噴射)點(度)	-18	-16	-13.2	冷却器出口		93	115		88
推進軸	每分回轉數	319.6	338.5	372.5	燃費	重油/輕油	重油	重油	輕油	
	平均	318.0	340.3	388.2	一晝夜		1.480	8.960	11.720	
	豫定	320.0	340.0	380.0	每時每馬力		0.18	0.18	0.165	
	實際	318.8	339.4	380.4	每		21.7	24.3	28.9	
發生馬力	豫定	1800	2200	3140	潤滑油	內部油	95.0	120.0	126.0	
	實際	1630	2140	2956	外部油		38.0	48.0	26.7	
使用電流	二次電池(合計)	9574.22	9574.22	/	發煙狀態		白	白	淡灰色	
	發電機(電動機)	/	/	/	艦ノ「ツリム」		UP 1°	UP 1°	/	
					吃水(呎)	前部	12-10	12-10	11-1/4	
						後部	13-10	13-10	15-1/2	
						平均	13-4	13-4	13-1/2	
					同上ニ對スル排水量		925	925	904	
					出渠後ノ日數		30	30	19	
					艦底ノ狀況		淨	淨	/	
					舵角度	潛舵	0	0	/	
						橫舵	0	0	/	
					海上ノ模様		和	和後荒	和	
					風向及風力		←3	←3	/	
					潮流		不詳	不詳	不詳	

(備考)  
一、發煙狀態ハ無、白、褐及黒ノ四種ニ區別シ一種ノ運轉中最長時間繼續セルモノヲ記入スルモノトス  
二、高速航續力試験(又ハ公試)全力量ニハ赤字ヲ以テ記入スルモノトス  
三、數量ノ記註ハ凡テ機關日誌機關月報記註心得ニ依ルモノトス



第四表

役務及海軍潜水艇學校  
練習潜水艇  
潜水艦名 第二十九號潜水艦

大正十三年 基本應 潜水艦教練運轉成績表 (第一次)

項	運轉ノ種類		高速航機力試験 (又ハ公試)全力
	右	左	
主電機	電動子	電壓	/
	界磁	電流	
	電動子	電壓	
	界磁	電流	
二次電池	總電	電壓	/
	標示電	電壓	
	比重	電壓	
	溫度	電壓	
放電率			

運轉ノ計畫並經過ノ概要

運轉計畫——本運轉目的ハ主機機、高力運轉ニ於テハ諸運轉要務對シハ機關側負、訓練及次、諸項目ニ就テ研究セントス (1) 高速運轉中於テハ機關、指揮操縱及艦外通信法 (2) 機關、整備度確認 (3) 運轉諸元適否 (4) 高速炭煙運轉法。運轉諸元現ハト別表ヤリ

經過概要——午前八時編隊出港同八時五十分解列ト同時ニ本運轉ヲ開始シ十分六全カヲ三時間十分七全カヲ三時間繼續シ午後二時五十分無事運轉ヲ終了セリ

運轉力度	3.0	3.0
全分回轉數	1.4	1.4
復分回轉數	3.20	3.40
タイミンギヤ (度)	2.29	2.30
スクロールカ (度)	1.8	1.8
燃料噴射力 (kg)	5.5	6.0
冷却水圧力 (kg)	2.25	2.26
潤滑油圧力 (kg)	0.84	0.84
潤滑油力 (kg)	0.84	0.98
燃料力	1.800	2.200
軸力	1.470	1.680

研究指定作業實施ノ概要

- (1) 高速運轉中於テハ機關、指揮操縱及艦外通信法——概算、指揮並ニ操縱ノ極力嚴正ニ施行セリ 艦外通信ノ命令、字系、手與似等ヲ以テ其ノ優否ヲ研究セリ
- (2) 機關、整備度確認——機械、音響、振動及運轉狀態等ニ對シ整備度ヲ確認ス
- (3) 運轉諸元適否——予定運轉諸元ノ基礎ニ發煙ノ狀態、機關、働作等ニ對シ其ノ適否ヲ研究セリ
- (4) 高速炭煙運轉法——「タイミンギヤ」「スクロールカ」冷却水圧力ノ調整變更ニ實施セリ

研究ノ成果並所見

- (1) 汽機ヲ有セザル潜水艦機關、指揮操縱ノ當否人負過勞ヲサルト相俟テ低速高速ニ拘ラズ極力靜肅確實且ク嚴正ニ施行スルコトヲ得ルモナリ唯機關、音響相當ノ高キガ艦外通信ノ意、セリナラサルモ字系ヲ以テスル法ニ依ルバ多ク秒時ヲ寧ストモ確實明瞭ニ傳ヘ目的達ス
- (2) 同下裝備機關、建造後已ニ四年ヲ經過セトシ其ノ間整理、時日ヲ得ズ為メ右運動部ハ極度ノ摩耗ニ振動音響共ニ大ニシテ運轉狀態亦宜カラズ發動部取付螺釘、折損頻繁ナラズ此ニ原因スル所少カラザルモト認メ右恩ニ付既ニ之ヲ廢シ毎年の約三ヶ月以上修理ヲ行ハシメ修整ヲ入、上ニ割當ル等、屬置ヲ採ラザルニ後ニ機關、壽命ヲ短縮スル過ギガハベシ感蒙、損失ナリ
- (3) 指圧閘ノ採取スルニ最高圧力公試、圧力逆シタイミンギヤ十八度ニ十六度ニ達スラ當ト認メ
- (4) L型外火式機械ニ於テハ機捕上發煙ヲ皆無ナラシムルコト能ハス殊ニ本艦ノ如ク右運動部ノ摩耗甚シク充分ニ圧縮圧力ヲ望ミ得ザルモアリテハ炭煙ヲラシムルコト不能ナリ然レドモ適宜ノ運轉諸元ヲ選定スルニ高力ナルニ從テ發煙ノ濃度ヲ減ス又内ハトド、潤滑油ノ調整モ有効ナリ十分ハ全カ以テハ發煙ヲ認ムル數節選ビ噴射調整手柄ノ位置ヲ變更スルコトヲ噴射出力、噴射量及噴射期ヲ著シ炭煙ヲラシムルコトヲ得

機關効程ニ影響セシ事項

運轉開始約五時間、終始風力三トル順風ノ影響ヲ受ケ回轉數對發力並ニ回轉數對速力ノ不均衡ヲ見ルニ至リ

運轉中實際生シタル故障缺損並處置

午前十時十五分第一機機房九番發動部外部油注入管ニ亀裂ヲ生シ油漏至基ニ直テ發動部燃料遮断ニ欽指部、麻紐ヲ縛捲止後舊 爾後異狀ナシ (従業人員下士長一名所需時間三分)

0172

アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

http://www.jacar.go.jp/

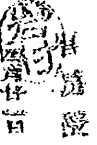


機關

三三

大正十三年第一潜水隊應用教練運転実施計画

四學志日提



(一) 本運轉大正十三年内令發四百七十五號全四百六十四號並大正十三年  
度長鎮守府教練運転實施要領ニ據ル外本計画ニヨリテ之  
ヲ實施ス

(二) 本運転目的ハ主機械及主電動機ノ高力運転ニ於ケル諸運転  
要務ニ對スル機關練習ノ訓練及浸込項目ニ就キ研究セントス

(三) 本運転ハ潜水隊員ノ固教程練習中別府附近ニ於テ實施ス  
但ニ七港ハ艦ハ訓令五章完成後適當ナル場所ニ於テ施行ス

(四) 天候其他ノ事故ヨリ本運転ヲ中止セラル場合ハ自運転ヲ施行ス此  
場合運転時間ハ前後通算シ所定ノ時間ニ達セラル

二、準備

(五) 本運転中艦ノ下リ込ヲ標準状態トス

(六) 主機械主電動機及補助装置ハ全ク發権ニ支障ナカラレルヲ要ス

(七) 成績檢測ニ必要ナル諸準備ノ完成

(八) 本運転ノ通信装置ヲ特設セス

三、運転實施要領



0173

(6)

九十分入全力運転二時間、後急速航行水中四時間率放震  
 三十分ニシテ急速浮上直々二十分入全力運転ヲ開始ト開始時ヨリ  
 三時間ニシテ本運転ヲ終一ノスルモノトス  
 四時率放震

運転種別	五級機使用水上航行	四時率放震七九〇A (二時ニ付迄)
運転力度	8/10	
運転時間	二—三〇	〇—三〇
予定速度	一五〇	七〇三
毎分回轉數	三五五	二三〇
使用剛角	二四/三四	
タイミングヤ(度)	八	
スクローホリム	六〇五	
燃料噴射圧力(所)	三六〇〇	
冷却水圧力(所)	一三	
潤滑油圧力(所)	一五	
実馬力	二四〇〇	
軸馬力	一九二〇	六〇〇

0174

五 指揮 部署 配置

(一) 本運転ニ於ケル機関科指揮操縦其他ハ潜水艦機関運転要務標

準並ニ本隊部署ニ依ル練習性ハ見學ナス

(二) 主機械運転ハ規定負、直配置ヲ以テ施行ス

(三) 本運転中諸記録、採取記註ハ定負外之ヲ行フ

六 指定 作業

(四) 排出弁冷却水蛇管破損使用ニ堪エズ予備品ヲ換裝作業

(五) 左舷潤滑油唧筒故障使用不可能ニ對スル應急ハ處置

七 研究 項目

(六) 高速運転中ニ於ケル機関、指揮操縦及艦内通信法

(七) 機関、整備度確認

(八) 運転諸元、適否

(九) 高速淡煙運転法

八 記録 報告

(十) 乗組機関科將校ハ本運転終了後一週間以内ニ所定成績表

ヲ通シ調整スルモ、トス

(三) 本運転中燃料費額ハ特ニ正確ニ計測スルヲ要ス



(三) 実馬力ハ指圧圖ニヨリ算出ス(各艦ニ備宛)  
(三) 本運転中ニ於ケル諸記録ハ毎三十分ニ計測スルモノトス  
(終)

0176